

は

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	発 達 心 理 学 概 論 (Introductin to Developmental Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>誕生から死に至るまでの人間発達について考えるのが(生涯)発達心理学である。本講座では、各ステージの特徴ばかりでなく、連続性と独自性も踏まえて人生の全体像を見据えて発達を考えていく。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 発達心理学の理論や方法論を学び、実践への活用を考える。  2. 乳児期～老年期までの発達の特徴を知り、発達支援や人間発達について考える。  3. 発達障害について理解し、その支援方法を学ぶ。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	発 達 心 理 学 の 意 義 一 本 講 義 の 概 要 の 説 明					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 何 を 学 ぶ か の ま と め		講 義 70 分 質 疑 20 分	
2	発 達 心 理 学 の 基 本 理 解					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 意 義 と 概 要 を 復 習		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
3	発 達 の 規 定 要 因 一 遺 伝 と 環 境					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 規 定 因 の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
4	発 達 の 段 階 と 発 達 課 題					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 発 達 課 題 の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
5	胎 児 期 ~ 児 童 期 の 発 達 と 障 害					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 障 害 の 理 解 と ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
6	ア タ ッ チ メ ン ト (愛 着) の 形 成					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 愛 着 の 理 解 と ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
7	親 子 関 係 一 子 ど も が い る 家 族 の ラ イ フ サ イ ク ル					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 親 子 関 係 の ま と め		講 義 50 分 討 議 40 分	
8	遊 び の 発 達 一 遊 び か ら 見 る 認 知 発 達					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 遊 び の 発 達 の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
9	こ と ば と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 発 達					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 言 語 発 達 の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
10	社 会 性 の 発 達 一 心 の 理 論、道 徳 性 の 発 達					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 社 会 性 発 達 の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
11	思 春 期 ・ 青 年 期 の 発 達 一 アイデンティティの形成					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : identity 形 成 の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
12	自 己 意 識 の 成 熟 と アイデンティティの形成 一 進 路 選 択 と モ ラ ト リ ア ム					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 青 年 期 発 達 の ま と め		講 義 50 分 討 議 40 分	
13	成 人 期 の 発 達 一 成 人 期 へ の 移 行 と ラ イ フ コ ー ス 選 択					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 移 行 期 の 理 解 と ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
14	老 年 期 の 発 達 一 統 合 と サ ク セ ス フ ル エ イ ジ ン グ					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : 老 年 期 心 理 の ま と め		講 義 50 分 討 議 40 分	
15	発 達 ア セ ス メ ン ト と 発 達 障 害 の 理 解 と 支 援 一 発 達 検 査 ・ 知 能 検 査 他 一					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : ア セ ス メ ン ト の ま と め		講 義 30 分 演 習 60 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使 用 し な い。適 宜、参 考 資 料 を 配 布。					無 藤 隆 / 中 坪 史 典 / 西 山 修 編 著 発 達 心 理 学 ミ ネ ル ヴ ェ 書 房 高 橋 道 子 / 藤 崎 眞 知 代 / 仲 真 紀 子 / 野 田 幸 江 著 新 曜 社 柏 木 恵 子 著 子 ども も 育 つ お と な も 育 つ 発 達 の 心 理 学 萌 文 書 林				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 一 方 的 な 講 義 で は な く、学 生 に 考 え て も ら う 時 間 を 設 け る。単 元 に よ っ て は 前 も つ て 発 表 者 を 決 め て お き、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 行 っ て も ら う こ と も あ る。受 け 身 な 態 度 で は な く、自 身 の 考 え を 表 現 で き る よ う に 心 が け て も ら い た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。水 曜 日 の 昼 休 み。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	発達と学習の心理 (Psychology of Development and Learning)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本授業では、乳幼児期の発達、動機付け理論、学習理論、行動分析学などの心理学の基礎から、子どもを理解する切り口を提供する。									
授業目標： 本講義の目標は、子どもの発達のプロセスや学習のメカニズムを理解し、子どもの発達段階や個々の特性にあった支援方法を考えることができるようになることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）				授業形態
1	オリエンテーション				事前：シラバスを読んでおく 事後：授業の見通しをつける				講義・演習
2	発達するとはどういうことなのか：生涯発達の中に乳幼児期を位置付けて考える				事前：自分の幼少期について親などに聞いてみる 事後：「発達」について自分の考えをまとめる				講義
3	生命の芽生えから誕生まで				事前：出産を経験した人に、妊娠から出産までの話を聞いてみる 事後：胎児の発達について学んだことをまとめる				講義
4	乳幼児の発達：認知的発達				事前：乳幼児を見かけたら、その様子や親子間の関わりを観察してみる 事後：乳幼児の発達について学んだことをまとめる				講義
5	乳幼児の発達：関係性の発達				事前：乳幼児を見かけたら、その様子や親子間の関わりを観察してみる 事後：乳幼児の発達について学んだことをまとめる				講義
6	愛着：アタッチメントとボンディング、愛着障害				事前：「愛着」について調べる 事後：アタッチメントの個人差について、その要因と関連付けてまとめる				講義
7	動機付け理論：内発的動機付け、外発的動機付け、学習性無力感				事前：何が自分のやる気につながっているのか考える 事後：様々な場面での「動機付け」について考える				講義
8	発達障害：自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害				事前：発達障害に関して調べてみる 事後：発達障害児の支援について考えてみる				講義
9	学習のメカニズム：古典的条件付け、オペラント条件付け				事前：パブロフの犬の実験について調べておく 事後：様々な場面での行動形成について考えてみる				講義
10	行動分析学による子どもの行動理解				事前：子どもの適切・不適切な行動にはどのようなものがあるか考える 事後：子どもの行動形成のメカニズムについて考える				講義・演習
11	行動分析学による子どもの行動形成				事前：形成・消去したい子どもの行動を考える 事後：上記子どもの行動をどのように形成・消去するのか考える				講義・演習
12	こんなときどうする？：集団場面での関わり				事前：幼稚園・保育園で気になる子どもの行動とは何か考える 事後：より適切な行動を形成するにはどうすればいいのか考える				講義・演習
13	こんなときどうする？：育児支援				事前：乳幼児育児期の母親は子どものどのような行動に困っているのか考える 事後：上記問題にどのようにアドバイスすればいいのか考える				講義・演習
14	グループでの事例検討・発表				事前：これまでの授業内容に基づき、検討したい事例を考えておく 事後：発表資料の作成				講義・演習
15	発表会				事前：発表資料の作成 事後：子どもの発達と学習について自分の考えをまとめる				演習
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	比較文化論 I (Comparative Culture I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。									
<b>授業目標：</b> 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要の説明 ◇比較文化論 I の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史～中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化～文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。					事前：教本 pp.19~24 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コミュニケーション ② 想像／創造する力の可能性をともに考える。					事前：教本 pp.24~31 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英語帝国主義～日本人はなぜ英語が話せないのか。					事前：教本 pp.108~117 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。					事前：教本 pp.117~134 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。					事前：教本 pp.135~144 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非言語 ② 沈黙の意味～日本人と以心伝心との関係を考える。					事前：教本 pp.144~152 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時間・空間—記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。					事前：教本 pp.152~157 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	まとめ ・比較文化論 I の内容を総括し、議論を深める。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
<b>教本：</b> 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					<b>参考文献：</b> 授業中に適宜紹介する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業中に課す小レポート（40%）及び期末レポート（60%）で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	比較文化論Ⅱ (Comparative Culture Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	比較文化論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。									
授業目標： 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要の説明 ◇比較文化論Ⅱの全体像を概観する。					事前：シラバス精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化とのかかわりを考える。					事前：教本 pp.83～95 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変えるのだろうか。					事前：教本 pp.95～108 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化について検討する。					事前：教本 pp.37～50 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争について理解を深める。					事前：教本 pp.50～59 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応について事例検討する。					事前：教本 pp.61～90 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味を考える。					事前：教本 pp.90～108 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	文化のポリティクス ① 現実はつくられる～アフリカと貧困・開発問題を知る。					事前：教本 pp.159～169 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	グローバリゼーションの行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化の関係を知る。					事前：教本 pp.181～188 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	グローバリゼーションの行方 ② 画一化されない食文化とはどのようなものか考える。					事前：教本 pp.189～192 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	グローバリゼーションの行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて何ができるか。					事前：教本 pp.192～205 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	研究発表 1 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：まとめノートの作成		報告 60分、討論 30分	
13	研究発表 2 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
14	研究発表 3 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
15	まとめ ・比較文化論Ⅱの総括とともに議論を深める。					事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教本： 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション －多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業中の小レポート（40%）及び期末試験（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジネストラベル論 (Business Travel)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>ツーリズムには狭義の観光のみならず、会議への出席やビジネスなどの目的で旅行することも含まれる。ビジネストラベル論では、MICEと呼ばれる企業の会議 (meetings) やインセンティブトラベル (企業報奨旅行、incentive travel)、国際会議 (conventions)、イベント・展示会・見本市 (events/exhibitions) に関わるツーリズムを学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>ビジネストラベルの現状を理解し、その重要性を認識すること</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	MICE とは (1)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	MICE とは (2)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	MICE の開催効果					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	MICE 関連産業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	MICE と都市・地域					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	MICE 誘致機関 (1)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	MICE 誘致機関 (2)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	MICE と観光					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	日本の MICE の沿革					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	欧米の MICE 産業の歴史と現況					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	MICE の動向と市場展望					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	MICE 産業確立に向けた施策					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
<p>教本：</p> <p>教科書は使用しない。プリントを配付する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>MICE は開催地に高い経済効果をもたらし、地域の知名度向上・国際化に資するため日本や世界の国々にとって重要な産業となってきた。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ビ ジ ネ ス 法 I (Business Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 I 私 法 学 II (同 時 履 修 も 含 め 、 好 ま し い 。)							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
商 法 は 、 民 法 の 特 別 法 と い わ れ ま す 。 講 義 の 中 心 と な る の は 主 に 商 法 総 則 ・ 会 社 法 総 則 と な り ま す が 、 ビ ジ ネ ス 法 を 強 く 意 識 し た 展 開 と し ま す 。									
授 業 目 標 :									
商 人 、 企 業 形 態 、 商 人 の 施 設 、 そ し て 、 民 法 不 及 し 民 事 法 を 強 く 意 識 し た 講 義 と し 、 法 的 も の の 見 方 、 ビ ジ ネ ス 実 務 と の 関 連 を 身 に つ け る よ う に す る こ と を 目 標 と し ま す 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、 重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	開 講 に あ た り 、 ガ イ ダ ン ス を 行 う 。 受 講 に お け る 約 束 、 テ ス ト 、 評 価 等 の 説 明 等 を 行 う 。 私 法 の 特 色 (概 要) を 示 し 、 私 法 学 II を 学 ん で い く う え で の 心 構 え 等 を 説 明 す る 。			事 前 : 事 後 : 次 回 講 義 の た め の 準 備 六 法 ・ テ キ ス ト 等 の 購 入 、 ビ ジ ネ ス 法 分 野 に つ い て の 事 前 の チェ ッ ク を す る 。 ビ ジ ネ ス 法 と は 何 か に つ い て 考 え る 。			講 義 75 分 、 質 疑 応 答 お よ び リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分 。		
2	商 法 を 中 心 と す る と ころ 、 商 法 ・ 会 社 法 と は 何 か 、 商 法 の 意 義 お よ び 会 社 法 の 意 義 に つ い て 考 察 す る 。 加 え て 、 商 法 の 法 源 を 概 説 す る 。			事 前 : ビ ジ ネ ス 法 と は 何 か に つ い て 考 え 、 加 え て 、 商 法 の 意 義 お よ び 会 社 法 の 意 義 等 に つ い て 確 認 す る 。 事 後 : 商 法 の 意 義 お よ び 会 社 法 の 意 義 等 に つ い て 確 認 し 、 ビ ジ ネ ス 法 と は 何 か を 考 察 し 、 ノ ー ト に ま と め る 。			講 義 75 分 、 質 疑 応 答 お よ び リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分 。		
3	民 法 と 商 法 ・ 会 社 法 の 関 係 を 概 観 し 、 企 業 組 織 法 と し て の 商 法 、 企 業 取 引 法 と し て の 商 法 に つ い て 概 説 す る 。			事 前 : 民 法 と 商 法 ・ 会 社 法 の 関 係 を 確 認 し 、 企 業 関 係 法 不 及 し ビ ジ ネ ス 法 に つ い て 考 察 す る 。 事 後 : 民 法 と 商 法 ・ 会 社 法 の 関 係 を 確 認 し 、 加 え て 、 企 業 関 係 法 不 及 し ビ ジ ネ ス 法 に つ い て 考 察 し 、 ノ ー ト に ま と め る 。			講 義 75 分 、 質 疑 応 答 お よ び リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分 。		
4	商 人 お よ び 商 行 為 に つ い て 概 観 し 、 企 業 形 態 お よ び 商 人 資 格 の 得 喪 等 に つ い て 概 説 す る 。			事 前 : 商 人 、 商 行 為 、 そ し て 、 企 業 形 態 お よ び 商 人 資 格 の 得 喪 に つ い て 確 認 す る 。 事 後 : 商 人 、 商 行 為 、 そ し て 、 企 業 形 態 お よ び 商 人 資 格 の 得 喪 に つ い て 確 認 し 、 ノ ー ト に ま と め る 。			講 義 75 分 、 質 疑 応 答 お よ び リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分 。		
5	商 号 に つ い て 、 考 察 す る 。 商 号 と は 、 何 か 。 商 号 と 商 標 の 違 い 、 商 号 の 選 定 、 商 号 の 登 記 、 商 号 権 等 に つ い て 概 説 す る 。			事 前 : 商 号 と は 、 何 か 。 商 号 と 商 標 の 違 い 、 商 号 の 選 定 、 商 号 の 登 記 、 商 号 権 等 に つ い て 確 認 し 、 商 号 に つ い て 、 考 察 す る 。 事 後 : 商 号 と は 、 何 か 。 商 号 と 商 標 の 違 い 、 商 号 の 選 定 、 商 号 の 登 記 、 商 号 権 等 に つ い て 確 認 し 、 商 号 に つ い て 考 察 し 、 ノ ー ト に ま と め る 。			講 義 75 分 、 質 疑 応 答 お よ び リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分 。		
6	名 板 貸 お よ び 名 板 貸 責 任 に つ い て 概 観 す る 。 名 板 貸 の 概 念 、 民 法 の 表 見 理 論 、 そ し て 、 名 板 貸 責 任 に つ い て 概 説 す る 。			事 前 : 名 板 貸 の 概 念 、 民 法 の 表 見 理 論 、 そ し て 、 名 板 貸 責 任 に つ い て 確 認 す る 。 事 後 : 名 板 貸 の 概 念 、 民 法 の 表 見 理 論 、 そ し て 、 名 板 貸 責 任 に つ い て 確 認 し 、 ノ ー ト に ま と め る 。					
7	営 業 お よ び 営 業 譲 渡 に つ い て 概 観 す る 。 営 業 お よ び 営 業 所 の 概 念 、 営 業 譲 渡 の 意 義 、 営 業 譲 渡 の 法 的 性 質 、 営 業 譲 渡 の 効 果 に つ い て 概 説 す る 。			事 前 : 営 業 お よ び 営 業 所 の 概 念 、 営 業 譲 渡 の 意 義 、 営 業 譲 渡 の 法 的 性 質 、 営 業 譲 渡 の 効 果 に つ い て 確 認 す る 。 事 後 : 営 業 お よ び 営 業 所 の 概 念 、 営 業 譲 渡 の 意 義 、 営 業 譲 渡 の 法 的 性 質 、 営 業 譲 渡 の 効 果 等 に つ い て 確 認 し 、 ノ ー ト に ま と め る 。			講 義 75 分 、 質 疑 応 答 お よ び リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分 。		
8	商 業 使 用 人 に つ い て 概 観 す る 。 商 業 使 用 人 の 意 義 、 支 配 人 、 特 定 の 事 項 等 の 委 任 を 受 け た 使 用 人 、 店 舗 使 用 人 等 に つ い て 概 説 す る 。			事 前 : 商 業 使 用 人 の 意 義 、 支 配 人 、 特 定 の 事 項 等 の 委 任 を 受 け た 使 用 人 、 店 舗 使 用 人 等 に つ い て 確 認 す る 。 事 後 : 商 業 使 用 人 の 意 義 、 支 配 人 、 特 定 の 事 項 等 の 委 任 を 受 け た 使 用 人 、 店 舗 使 用 人 等 に つ い て 確 認 し 、 ノ ー ト に ま と め る 。			講 義 75 分 、 質 疑 応 答 お よ び リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分 。		
9	代 理 商 に つ い て 概 観 す る 。 代 理 商 の 意 義 、 代 理 商 に 関 す る 特 則 等 に つ い て 概 説 す る 。			事 前 : 代 理 商 の 意 義 、 代 理 商 に 関 す る 特 則 等 に つ い て 確 認 す る 。 事 後 : 代 理 商 の 意 義 、 代 理 商 に 関 す る 特 則 等 に つ い て 確 認 し 、 ノ ー ト に ま と め る 。			講 義 75 分 、 質 疑 応 答 お よ び リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分 。		

10	商業帳簿について概観する。商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の備置および提出について概説する。	事前：商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の保存および提出について確認する。 事後：商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の備置および提出について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
11	商業登記制度について概観する。商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について概説する。	事前：商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について確認する。 事後：商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
12	民法上の組合と営利企業形態について概観する。無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について概説する。	事前：無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について確認する。 事後：無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
13	企業の代表者（役員等）と企業との法的地位について概観する。企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務および責任等について概説する。	事前：企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務・責任等について確認する。 事後：企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務・責任等について確認し、ノートにまとめる。	
14	債権・債務等の移転と組織再編について概観する。特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について概説する。	事前：債権・債務等の移転と組織再編、特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について確認する。 事後：債権・債務等の移転と組織再編、特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
15	企業倒産と破産手続、債権者平等の原則について概観する。企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について概説する。	事前：企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について確認する。 事後：企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
教本： 「ポケット六法」（有斐閣）は、必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝えます。	
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ビ ジ ネ ス 法 II (Business Law II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 I 私 法 学 II ビ ジ ネ ス 法 I (同 時 履 修 も 含 め、好 ま し い。)							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
商 法 は、民 法 の 特 別 法 と い わ れ ま す。講 義 の 中 心 と な る の は 主 に 商 取 引 法 と な り ま す が、ビ ジ ネ ス 法 を 強 く 意 識 し た 展 開 と し ま す。									
授 業 目 標 :									
商 取 引 法 を 中 心 と し ま す が、民 法 な い し 民 事 法 を 強 く 意 識 し た 講 義 と し、法 的 も の の 見 方、ビ ジ ネ ス 実 務 と の 関 連 を 身 に つ け る よ う に す る こ と を 目 標 と し ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	ガイダンス:開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。ビジネスの特色(概要)を示し、ビジネス法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前: 事後: 次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。ビジネス法とは何かについて考える。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
2	民法の四原則、物権と債権の峻別等について概観する。権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について概説する。			事前: 権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について確認する。 事後: 権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
3	意思表示と契約の成立・効果等について概観する。意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について概説する。			事前: 意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について確認する。 事後: 意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
4	代理と代表について概観する。民事代理と商事代理、商事代理の特色等について概説する。			事前: 民事代理と商事代理、商事代理の特色等について確認する。 事後: 民事代理と商事代理、商事代理の特色等について確認し、ノートに			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
5	売買契約について概観する。売買契約の意義、売買契約と特別法(商事売買契約)、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について概説する。			事前: 売買契約の意義、売買契約と特別法(商事売買契約)、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について確認する。 事後: 売買契約の意義、売買契約と特別法(商事売買契約)、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
6	交互計算について概観する。交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について概説する。			事前: 交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について確認する。 事後: 交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
7	匿名組合について概観する。匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について概説する。			事前: 匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について確認する。 事後: 匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
8	仲立営業について概観する。仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について概説する。			事前: 仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について確認する。 事後: 仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
9	取次営業(問屋・運送取次)について概観する。取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について概説する。			事前: 取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について確認する。 事後: 取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		



10	運送営業について概観する。物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について概説する。	事前：物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について確認する。 事後：物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
11	倉庫営業について概観する。倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について概説する。	事前：倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について確認する。 事後：倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
12	運送保険について概観する。保険とは何か、保険契約と射替契約、運送保険の特色等について概説する。	事前：保険契約と射替契約、運送保険の特色等について確認する。 事後：保険契約と射替契約、運送保険の特色等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
13	約款契約、企業間取引・対消費者取引等について概観する。約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について概説する。	事前：約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について確認する。 事後：約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
14	破産と担保物権について概観する。担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について概説する。	事前：担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について確認する。 事後：担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
15	破産と非典型担保について概観する。譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について概説する。	事前：譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について確認する。 事後：譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝えます。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジュアル情報論 (Visual Digitalization)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	秋廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>情報を視覚的に伝達するためには、情報を受け取る立場に立ち、必要な内容を選択し、整理や分類した上で、わかりやすく再構築する必要がある。そのために本授業では、まず、効果的な情報整理の重要性を確認する。そのうえで、パワーポイントによるビジュアル・レイアウトの演習を通して、ビジュアル・コミュニケーションの基本的なルールを学習する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>PowerPointの基本的な機能と操作を説明できる／視覚伝達表現を構成する諸要素の効果を説明できる／情報の性質に応じて、適切なダイアグラム、チャートで表現できる／未整理の情報を編集し、目的に応じて論理的に構造化し、視覚情報として可視化することができる</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：配布資料を確認する		講義	
2	総務省はなぜ「統計表における機械判読可能なデータ作成に関する表記方法」なるルールを作成したか					事前：資料を下読みする 事後：講義内容を復習する		講義 60分 演習 30分	
3	ネ申エクセル問題（神Excel問題）について考察する					事前：Excelの操作をおさらいする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
4	PowerPoint基礎を学習する(1) ブレースホルダー、smart 図形					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
5	PowerPoint基礎を学習する(2) フォント、整列					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
6	PowerPoint基礎を学習する(3) レイアウト、視覚効果、余白、テーマ					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
7	PowerPointで テキスト配置と「囲み」の法則を学習する					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
8	PowerPointで視覚デザインの基礎を学習する(1) 字体、ジャンプ率、色彩					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
9	PowerPointで視覚デザインの基礎を学習する(2) 余白、整列、グループ化					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
10	路線図に見るゲシュタルト／良い連続／位相図法の法則					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
11	課題：総務省のパワボ書類の改善を試みる					事前：課題の資料を確認しておく 事後：課題を完成させ、提出する		講義 60分 演習 30分	
12	様々なデザイン指標：①Apple Human Interface Guidelines、②Material Design					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
13	グループワーク：プロトタイピングツールによるUIデザインを体験する (1) 情報の整理					事前：ソフトウェアを確認する 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
14	グループワーク：プロトタイピングツールによるUIデザインを体験する (2) 視覚効果					事前：ソフトウェアを確認する 事後：確認課題を提出する		講義 60分 演習 30分	
15	総括					事前：授業で使用した資料をまとめておく 事後：課題のフィードバックを確認する		講義	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業での確認課題（30%）、小テスト等（30%）、作品制作（40%）で評価する。</p>									
学生へのアドバイス：									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	美 術 史 (Art History)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 西洋美術史については、一般に聞きなれたキーワードを切り口として、古代から現代まで、作品が生まれた歴史的背景とその受容についてスライド等で鑑賞しながら適宜解説する。日本美術史と現代美術については重要項目を取り扱う。									
授 業 目 標 : 美術作品が制作された文化的背景を理解し、美術における歴史的な推移と代表的な作品を説明できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	ガイダンス／資料についての説明を行う					事前：シラバスを読む 事後：資料の復習をする			講義
2	西洋美術史 (1) 古代オリエント～ギリシャ・ローマ					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(1)について復習する			講義
3	西洋美術史 (2) 中世：ヨーロッパの美術の土台					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(2)について復習する			講義
4	西洋美術史 (3) イタリアルネサンス I 15世紀フィレンツェの美術					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(3)について復習する			講義
5	西洋美術史 (4) イタリアルネサンス II 西洋美術の頂点					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(4)について復習する			講義
6	西洋美術史 (5) 印象主義について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(5)について復習する			講義
7	西洋美術史 (6) 新印象主義／後期印象主義について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(6)について復習する			講義
8	西洋美術史 (7) 世紀末美術について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(7)について復習する			講義
9	西洋美術史 (8) 近代の建築、工芸、彫刻、美術					事前：資料を下読みしておく 事後：これまでの講義内容を纏めておく			講義
10	現代美術 (1) おもに絵画について扱う					事前：資料を下読みしておく 事後：現代美術(1)について復習する			講義
11	現代美術 (2) 絵画以外を扱う					事前：資料を下読みしておく 事後：現代美術について纏めておく			講義
12	日本美術史 (1) 基本的な用語、各時代の位置づけと特徴を解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(1)について復習する			講義
13	日本美術史 (2) 国宝・重文の絵画について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(2)について復習する			講義
14	日本美術史 (3) 国宝・重文の仏像・彫刻について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史について纏めておく			講義
15	総括を行う					事前：講義で扱った資料を概観しておく 事後：総括を踏まえて講義内容をまとめる			講義
教 本 : 講義内で指示する					参 考 文 献 : 講義内で指示する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 で の 演 習 (30%)、小 テ ス ト 等 (30%)、レ ポ ー ト (40%) で 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 小 テ ス ト 提 出 方 法、レ ポ ー ト 提 出 方 法 な ど、少 し で も 不 明 な 点 が あ れ ば、早 め に 質 問 し て お く こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ファイナンス法 (Finance Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	企業組織法Ⅰ、企業契約法Ⅱを履修していることが望ましい。							
	その他	なし							
授業概要： 本講義は、金融商品取引法を対象とする。証券市場の主なプレーヤーには、証券の発行会社・投資者・証券会社・証券取引などがあり、市場の規制当局として国がある。この講義では、それらプレーヤーの役割や機能、規制上の位置付けなどを検するとともに、株式等の取引を適正に行うための規制の概要ならびに実際に裁判でも争われるような重要な問題についても、検討して理解を深めていく。									
授業目標： 1. 金融商品取引法に関する基本的事項について、自らのことばで説明することができる。 2. 現実の同取引において生じている問題の概要とその解決策を発見し説明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	金融商品取引法とは？ 学ぶにあたって（導入）					事前：なし 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	不正取引の2類家 その概要 規制趣旨					事前：教本の該当箇所精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
3	相場操縦 風説の流布、仮装売買、馴合売買、見せ玉					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
4	インサイダー取引 規制概要、会社関係者、重要事実、公表、適用除外等					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
5	包括的不公正取引制限規制 不正取引の禁止、偽計取引					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
6	証券会社の行為規制 誠実公正義務、自己責任原則、個別規制の概要					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
7	販売・勧誘規制 広告規制、虚偽通知、断定的判断の提供禁止、適合性原則					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
8	損失補てん等の禁止 規制概要、規制趣旨					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
9	公開買付け 公開買付けとは、規制趣旨、手続き、別途買付けの禁止					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
10	強制的公開買付け 5%基準、3分の1基準、3分の2基準、全部買付義務					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
11	敵対的企業買収と公開買付け、発行会社による公開買付け 支配権争奪、支配権争奪過程の透明性、重要事実の公表					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
12	虚偽記載等の民事責任 虚偽記載等とは、その責任、継続開示における責任					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
13	大量保有報告制度 規制趣旨、規制内容					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
14	発行開示規制、継続開示規制 それぞれの形式、必要性、ゲートキーパーの役割					事前：教本の該当箇所の精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、 討論 30分	
15	本講義の総括とともに、浮かび上がってきた金商法上の課題について事例を基に検討する					事前：これまでのノート整理 事後：まとめのノートの作成		講義 60分、 討論 30分	
教本： 梅本剛正『金商法入門』（中央経済社、2021） ¥2,500+税					参考文献： 授業中に適宜指示する。 ※学習用六法を携帯すること。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点としての小テスト（20%）、期末試験（80%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 複雑な法律ではあるが、独禁法よりは解りやすいと思う。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ファイナンシャル・プランニング I (Financial Planning I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ファイナンスは一般的に金融や財政、融資のことですが、ファイナンシャル・プランとなると、主として私たち個人に関わる金融の管理・計画となります。わかりやすくいえば貯金や税金、保険、投資、資産形成、相続のことです。本講座は身の回りのおカネ全般について講義します。FP (ファイナンシャルプランナー) 技能検定を受験する学生にもあわせて講義します。									
授 業 目 標 : FP 受 験 レ ベ ル の 知 識 の 習 得									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：ファイナンシャル・プランニングの意味と範囲 (1) FPの説明 (2) 身の回りの金融の問題					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義(60分) 演習(30分)	
2	現代社会におけるパーソナル・ファイナンス： ライフ・プランとファイナンシャル・プラン					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
3	経済環境と家計： 私たちを取り巻く経済社会の変化と家計への影響					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
4	家計管理(1)：家計の資産と負債(短期) 収入と支出、貯蓄について					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
5	家計管理(2)：家計の金融資産(中・長期) 預貯金の種類と特徴、金融指標の見方					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
6	保険の経済学(1)：保険の基本構造 保険の種類と特徴					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
7	保険の経済学(2)：生命保険 生命のリスク・マネジメント					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
8	保険の経済学(3)：損害保険 自動車保険について知る					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
9	保険の経済学(4)：損害保険 火災保険と地震保険他					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
10	保険の経済学(5)：損害保険 医療・介護保険					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
11	税金の経済学(1)：税制概論 税金の種類と特徴					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
12	税金の経済学(2)：所得税 所得税のしくみと実際、家族構成と所得税、控除制度					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
13	税金の経済学(3)：税金の計算 確定申告について					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
14	税金の経済学(4)：税金トピックス 消費税やガソリン税、補助金・助成金のあらまし					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
15	本講座のまとめ：					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
教 本 : 適宜、資料を配布します。					参 考 文 献 : 初回講義日に提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 勉 強 す る 項 目 は 比 較 的 多 い で す が、ど れ も 身 近 な ト ピ ッ ク ス で す。必 ず や 今 後 の 経 済 活 動 に 役 立 ち ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ファイナンシャル・プランニングⅡ (Financial Planning Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ファイナンシャル・プランニングⅠでは、主に誰もが関わるテーマを扱いました。本講座では長期的な観点のライフステージから社会保険制度と相続、さらに資産形成の領域から投資について講義します。なお、講義後にFP検定問題を扱うこともあります。									
授 業 目 標 : FP受験レベルの知識の習得									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：ファイナンシャル・プランニングの意味と範囲 (1) 資産形成とは (2) 預貯金と投資、投機 (3) 動産と不動産					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義(60分) 演習(30分)	
2	資産形成・管理(1)：不動産 不動産の購入					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
3	資産形成・管理(2)： 不動産の登記					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
4	資産形成・管理(3)： 不動産の売買					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
5	社会保険の経済学(1)：年金とは何か しくみと問題					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
6	社会保険の経済学(2)：基礎年金と厚生年金 公的年金と社会保障制度					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
7	投資と投機の経済学(1)：信託 安全資産としての信託、メリット、デメリット					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
8	投資と投機の経済学(2)：株 わが国の株式市場の現況と投資の基礎					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
9	投資と投機の経済学(3)：リスク・マネジメント リスクとリターンをどう考えるか					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
10	相続(1)：世代交代 不可避免的に訪れる相続の実際					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
11	相続(2)：遺言 「遺言書」の基本と法律、税制					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
12	相続(3)：ケース・スタディ 賢い相続はあるのか					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
13	事業継承(1)：会社とは何か 会社の規模、種別による特徴、能力と権力					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
14	事業継承(2)：Going Concern 代替わりのケース・スタディ					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
15	まとめ					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
教 本 : なし。適宜、資料を配布します。					参 考 文 献 : 初回講義日に提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 本講座はファイナンシャル・プランニングⅠのアドバンス版です。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フィールドワーク (Fieldwork)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	質 的 調 査 法 を 履 修 し て い る こ と 。							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
街に出て地域社会が直面する課題を解決する目標に質的調査法(研究法)を駆使、探求します。そこで、質的調査法が履修済みであることを前提条件にします。なおグループ・ワークが基本ですから、原則として欠席は認めません。									
授 業 目 標 :									
① 地域社会を対象にパートナー関係を形成し調査研究する態度を育成する。 ② チームワークで課題達成する協働関係力を学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：復習		講義	
2	リレーション形成					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
3	ワークデザインを考える					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
4	プレゼンテーションの手順					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
5	ワークデザインの実施					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
6	リサーチマインドの育成					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
7	プレゼン・シートの作成					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
8	ワーク成果の発表					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
9	フィードバック					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
10	地域社会への提言					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
11	今後の課題解決への展望					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
12	自己・他者・社会との関係性を考える					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
13	フィールドワークでの学びとは何か					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
14	フィールドワークで情報発信					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
15	授業のまとめ					事前：なし 事後：復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『WIN-WIN-WIN ワークブック』、 菅沼憲治、菅原印刷株式会社					授業中に随時紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 ( 60%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 ( 40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 内 外 の フ ィ ー ル ド ワ ー ク が 中 心 の 授 業 で す。学 生 相 互 の コ ラ ボ レ ー シ ョ ン を 求 め ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	物 権 法 (Property Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	法 学 / 私 法 学 I / 私 法 学 II							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>本講義では、民法第二編物権の中の所有権、物権変動を中心に講義を行ないます。物権法の全体像を概観した後、所有権と物権変動に重点を置き、用益物権をテーマとして取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>物権法の基本的な知識を習得し、所有権、物権変動といった物権法の主要領域の法的諸問題を把握し、説明できるようになること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	民法財産法一物権法の概要				事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	物権法定主義/物				事前：物権法定主義について調べる。 事後：物権法定主義とその根拠についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	所有権の内容				事前：所有権の内容に関する民法の規定を調べる。 事後：資料の整理			講義60分 ディスカッション30分	
5	所有権の効力(1) 物権的請求権の種類と内容				事前：物権的請求権について調べる。 事後：物権的請求権の種類をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	所有権の効力(2) 請求権競合/返還請求権における利害調整				事前：請求権競合とは何かを調べる。 事後：返還請求権における利害調整をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	所有権の原因(1) 取得原因/取得時効				事前：契約以外の所有権の取得原因について調べる。 事後：取得時効の存在理由についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	所有権の原因(2) 原始取得/添付/付合				事前：所有権の原始原因について調べる。 事後：日本の付合法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	物権変動(1) 物権変動とは何か/契約による不動産の物権変動				事前：物権変動のメカニズムについて調べる。 事後：不動産の対第三者対抗要件についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	物権変動(2) 契約による動産物権変動の対抗要件				事前：動産物権変動の対抗要件について調べる。 事後：動産の公示、引渡しについてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	物権変動(3) 公信の原則一動産物権変動における取引安全保護				事前：公信の原則について調べる。 事後：動産の即時取得についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	共同所有関係(1) 共有				事前：共有の法律関係について調べる。 事後：共有の法律関係について調べる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	共同所有関係(2) 建物の区分所有				事前：区分所有法について調べる。 事後：建物区分所有法の特徴についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	用益物権(1) 地上権/地上権と賃貸借				事前：地上権について調べる。 事後：地上権と賃貸借についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	用益物権(2) その他の用益物権				事前：地上権以外の用益物権について調べる。 事後：用益物権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
とくになし (資料を配布します)。					授 業 中 に 適 宜 指 示 し ます。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 法 学 は 複 雑 な 現 代 社 会 を ひ も と き、理 解 す る た め の 一 つ の 道 具 で も あ り ま す。日 常 的 に 社 会 の 問 題 に 目 を 配 り、何 が 問 題 な の か を 考 え る た め に、法 学 を 自 分 の 分 析 の 道 具 と し て も ら い た い と 思 い ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									



開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	物的担保法 (Real Security Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 I / 私 法 学 II / 物 権 法 / 人 的 担 保 法							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 本講義では、民法第二編物権の中の担保物権を中心に講義を行ないます。まず物権法の全体像と所有権、用益物権、物権変動を概観し、担保物権のうち、最も重要な抵当権を重点に、質権や法定担保物権、非典型担保物権を取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授 業 目 標 : 担保物権の基本的な知識を習得し、抵当権とは何か、その法的な論点はどのようなものかについて説明できるようになること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	債権法の概要				事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	抵当権(1) 物的担保法序説／抵当権とは何か				事前：物的担保について調べる。 事後：抵当権の概要についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	抵当権(2) 被担保債権／目的物(1) 抵当権の及ぶ範囲				事前：抵当権の被担保債権について調べる。 事後：抵当権の及ぶ範囲についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
5	抵当権(3) 目的物(2) 物上代位				事前：物上代位とは何かを調べる。 事後：物上代位についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	抵当権(4) 目的物(3) 土地と建物が別個の不動産とされることから生ずる問題				事前：法定地上権とは何かを調べる。 事後：法定地上権にまつわる問題をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	抵当権(5) 実行前の抵当権の効力(1) 設定者の使用収益権／第三者への利用権の設定				事前：抵当権実行前の効力について調べる。 事後：第三者への利用権の設定をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	抵当権(6) 実行前の抵当権の効力(2) 抵当権に対する侵害行為／抵当不動産の第三取得者との関係				事前：侵害に対する効力について調べる。 事後：第三取得者との関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	抵当権(7) 実行段階の問題				事前：担保不動産の競売・収益執行について調べる。 事後：担保不動産の競売・収益執行についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	抵当権(8) 抵当権の消滅				事前：一般的な消滅原因について調べる。 事後：抵当権の消滅時効についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	抵当権(9) 根抵当権				事前：根抵当権について調べる。 事後：根抵当権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	質権				事前：質権について調べる。 事後：質権の効力についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	非典型担保(1) 譲渡担保／売渡担保				事前：譲渡担保／売渡担保について調べる。 事後：譲渡担保／売渡担保についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	非典型担保(2) 仮登記担保／所有権留保／その他の担保				事前：仮登記担保／所有権留保について調べる。 事後：仮登記担保／所有権留保についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	まとめ				事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教 本 : とくになし (資料を配布します)。					参 考 文 献 : 授業中に適宜指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	フランス語 I (French I)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	平野 由里子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>フランス語に初めて接する学生を対象とし、abc から丁寧に学んでゆきます。発音の決まりと初歩的な文法の修得をめざします。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Leçon 1 文字と音 (1) アルファベとその発音					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
2	Leçon 1 文字と音 (2) 自己紹介と数字 0～10					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
3	Leçon 1 文字と音 (3) 復習とヨーロッパ地図クイズ					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
4	Leçon 2 綴り字と発音 (1) フランス語の発音の規則					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
5	Leçon 2 綴り字と発音 (2) 町の名前を発音してみよう					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
6	Leçon 2 綴り字と発音 (3) 動物や植物の名前を発音してみよう					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
7	Leçon 2 綴り字と発音 (4) 発音の復習と数字 11～20					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
8	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (1) 家族・友人の言い方と不定冠詞					事前：P.24 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習		
9	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (2) 身近なものの言い方と「～を持っています」という動詞					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
10	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (3) 年齢の言い方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
11	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (4) Leçon 3 の復習					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
12	Leçon 4 紹介する (1) 国籍・職業の言い方					事前：P.32 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習		
13	Leçon 4 紹介する (2) 人について尋ねる言い方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
14	Leçon 4 紹介する (3) 人の特徴の言い方と数字 21～69					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
15	Leçon 4 紹介する (4) Leçon 4 の復習					事前：なし 事後：テスト勉強		講義と演習		
<p>教本：</p> <p>Avec ça? C'est tout! (これだけでフランス語) 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ¥2,300</p>					<p>参考文献：</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、平常点（50%）、定期試験（40%）で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>授業後 15 分程度、講師控室にいます。</p>										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フ ラ ン ス 語 I (French I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ブ ル ゴ ス イ ヴ								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 最大の特徴として日本語とフランス語とで指示文が書かれており、初心者でもわかりやすいという特徴があります。また、日本の学習スタイルに合うように基本フレーズを勉強し、繰り返し使わせる (=スパイラル) ことでフランス語を身につけさせるというスタイルになっています。授業中アクティブな態度を求める(発音の練習など)。									
授 業 目 標 : フランス語の基礎を身に付ける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Phonétique 1 - 発音					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
2	Initiation 1 - 挨拶、自己紹介					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
3	Initiation 2 - 挨拶、綴り、国籍					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
4	Leçon 1 - 名前、国籍					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
5	Leçon 1 - 人について 1					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
6	Leçon 2 - 職業					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
7	Leçon 2 - 言語名					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
8	Leçon 3 - 国名					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
9	Leçon 3 - 観光名所					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
10	Leçon 4 - 食べ物					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
11	Leçon 4 - スポーツ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
12	Leçon 5 - 好み (行動 1)					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
13	Leçon 5 - 好み (行動 2)					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
14	テ ス ト					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
15	ア ク テ ィ ビ テ ィ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
教 本 : Spirale, Nouvelle édition					参 考 文 献 : G. Crépieux, P. Callens, Hachette 出版				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎 日 5 分 で も 練 習 し よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	フランス語Ⅱ (French Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	平野 由里子									
履 修 条 件	前提科目	フランス語Ⅰ								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。</p> <p>授業目標：</p> <p>フランス語コミュニケーションⅠを習得した学生を対象とし、フランス語の初級文法を修得することをめざします。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	フランス語コミュニケーションⅠの復習					事前：Leçon 4 まで見直す 事後：授業内容復習		講義と演習		
2	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (1) 「～に住んでいます」					事前：P.40 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習		
3	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (2) 「～が好きです」					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
4	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (3) いろいろな動詞					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
5	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (4) Leçon 5 の復習					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
6	Leçon 6 否定文・疑問文 (1) 「～ではありません」「～を持っていません」					事前：P.48 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習		
7	Leçon 6 否定文・疑問文 (2) 「～が好きではありません」「～しません」					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
8	Leçon 6 否定文・疑問文 (3) 「～ですか?」「何をしますか?」					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
9	Leçon 7 時刻・天候を言う (1) 足し算・引き算・年齢					事前：P.56 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習		
10	Leçon 7 時刻・天候を言う (2) 時刻の言い方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
11	Leçon 7 時刻・天候を言う (3) 天候の言い方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
12	Leçon 8 行き先を言う (1) 「～へ行きます」					事前：P.64 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習		
13	Leçon 8 行き先を言う (2) 「～から来る」					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
14	Leçon 8 行き先を言う (3) カフェで注文する					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
15	これまでの復習					事前：なし 事後：テスト勉強		講義と演習		
教本：					参考文献：					
<p>Avec ça? C'est tout! (これだけでフランス語) 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ¥2,300</p>										
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、平常点（50%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス： ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。</p>										
<p>オフィスアワー： 授業終了後、15分程度講師控室にいます。</p>										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フ ラ ン ス 語 Ⅱ (French Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ブ ル ゴ ス イ ヴ								
履 修 条 件	前 提 科 目	フ ラ ン ス 語 Ⅰ							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 最大の特徴として日本語とフランス語とで指示文が書かれており、初心者でもわかりやすいという特徴があります。また、日本の学習スタイルに合うように基本フレーズを勉強し、繰り返し使わせる (=スパイラル) ことでフランス語を身につけさせるというスタイルになっています。授業中アクティブな態度を求める (発音の練習など)。									
授 業 目 標 : フランス語をもっと身に付ける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Leçon 6 - 形容詞					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
2	Leçon 6 - 比較表現					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
3	Leçon 7 - 数字、科目					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
4	Leçon 7 - 曜日					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
5	Leçon 8 - もの、動物					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
6	Leçon 8 - 文房具					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
7	Leçon 9 - フランスの観光名所					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
8	Leçon 9 - フランスの地名					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
9	Leçon 10 - 余暇などにすること					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
10	Leçon 10 - 余暇の過ごし方					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
11	Leçon 11 - 余暇 (スポーツ、音楽、ゲーム)					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
12	Leçon 11 - 頻度の表現、人々					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
13	Leçon 12 - 家族					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
14	テ ス ト					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
15	ア ク テ ィ ビ テ ィ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
教 本 : Spirale, Nouvelle édition					参 考 文 献 : G. Crépieux, P. Callens, Hachette 出版				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎 日 5 分 で も 練 習 し よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フ ラ ン ス 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (French Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	ブルゴス イヴ								
履 修 条 件	前 提 科 目	フ ラ ン ス 語 Ⅱ							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 最大の特徴として日本語とフランス語とで指示文が書かれており、初心者でもわかりやすいという特徴があります。また、日本の学習スタイルに合うように基本フレーズを勉強し、繰り返し使わせる(=スパイラル)ことでフランス語を身につけさせるというスタイルになっています。授業中アクティブな態度を求める(発音の練習など)。									
授 業 目 標 : フランス語を理解して、コミュニケーション力を高める。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Leçon 12 一過去 1、時					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
2	Leçon 13 一場所、時刻					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
3	Leçon 13 一営業時間、過去 2					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
4	Leçon 14 一できないこと、外出の目的					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
5	Leçon 14 一電話、祭り					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
6	Leçon 15 一月名、日付					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
7	Leçon 15 一フランス人の休暇					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
8	Leçon 16 一毎日の行為、習慣					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
9	Leçon 16 一順番、生活のリズム					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
10	Leçon 17 一交通					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
11	Leçon 17 一avant、数字					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
12	Leçon 18 一移動					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
13	Leçon 18 一支払い方法					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
14	テスト					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
15	アクティビティ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
教 本 : Spirale, Nouvelle édition					参 考 文 献 : G. Crépieux, P. Callens, Hachette 出版				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎 日 5 分 で も 練 習 し よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 抜	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	プログラミング基礎 (Programming)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	情報処理概論 (PCの基本的な操作については既知とする)							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
<b>授業概要：</b> コンピュータは、機械の言語であるプログラムから命令されることによって動いています。このプログラムは決められたルールに基づいて動きます。そのプログラムの基本について、主にゲームを作るという目的のもと、理解する。									
<b>授業目標：</b> プログラミングの基本的なルールを理解し、プログラミング思考を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、プログラムができるまで					事前：シラバスを読む 事後：PC環境の整備		講義 60分 演習 30分	
2	Processingでプログラムを始めよう					事前：ソフトのインストール 事後：ソフト準備		講義 30分 演習 60分	
3	Processingで図形を描こう					事前：精読① (13-50) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
4	関数、変数、画像表示、乱数					事前：精読① (51-89) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
5	条件分岐、繰り返し					事前：精読① (91-142) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
6	配列と繰り返し処理でさまざまな表現を作ろう					事前：精読① (143-184) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
7	クラスとオブジェクトを活用しよう					事前：精読① (185-238) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
8	アクションゲームを作ろう					事前：精読① (239-272) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
9	Visual Studio Communityで作るプログラム					事前：ソフトのインストール 事後：ソフト準備		講義 30分 演習 60分	
10	VSC変数と計算					事前：精読② (17-66) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
11	VSC条件分岐					事前：精読② (67-116) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
12	VSCループと関数					事前：精読② (117-162) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
13	VSCロールプレイング風ゲームを作ろう (ループと配列変数)					事前：精読② (163-198) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
14	VSC恋愛ゲームを作ろう (文字列の処理)					事前：精読② (199-242) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
15	VSCプラネタリウムを作ろう (データ構造とメモリ管理)					事前：精読② (243-289) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
<b>教本：</b> ① 『はじめてのプログラミング』 (技術評論社) ② 『C言語ゲームプログラミング教室』 (ラトルズ)					<b>参考文献：</b> 『プログラミング基礎の基礎』 (技術評論社)				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 課題提出 (50%)、授業内での演習 (30%)、定期試験 (20%) 等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> コンピュータのプログラミンはどのように動くのかの興味を持って臨んでください。毎回の課題は必ず提出してください。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 化 遺 産 と 観 光 (Cultural Heritage and Tourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
国内外の世界遺産を中心として文化遺産の保護と活用における観光のあり方について学修する。世界遺産検定取得のための講義でもあり、そのための講義なども行う。									
授 業 目 標 :									
①文化遺産と観光のあり方の理解 ②世界遺産検定3級・2級の取得レベルの世界遺産の知識									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	(1)文化遺産と観光の構成及び世界遺産検定の内容 ①文化遺産と観光の構成 ②世界遺産検定の内容					事前：文化遺産に関する予備知識の取得 事後：文化遺産と観光についてまとめ。		講義70分 小テスト20分(適宜)	
2・3	(2)世界遺産の体系 ①世界遺産とは ②世界遺産登録関連組織 ③世界遺産申請と登録の流れ ④数字で見る世界遺産					事前：ユネスコに関する調査を行う。 事後：世界遺産関連組織と世界遺産申請のながれについてまとめる。		講義70分 小テスト20分(適宜)	
4~7	(3)日本の世界遺産 法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島、白神山地、古都京都の文化財、白川郷・五箇山の合掌造り集落、原爆ドーム、厳島神社、古都奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国のグスク及び関連遺産群、紀伊山地の霊場と参詣道、知床、石見銀山遺跡とその文化的景観、小笠原諸島、平泉・仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群、富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉、富岡製糸場と絹産業遺産群、明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業、ル・コルビュジエの建築作品 - 近代建築運動への顕著な貢献、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、百舌鳥・古市古墳群 - 古代日本の墳墓群、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島、北海道・北東北の縄文遺跡群					事前：日本の世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。		講義70分 小テスト20分(適宜) 模擬試験(適宜)	
8~12	(4)海外の世界遺産 アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア、アフリカの世界文化・自然・総合遺産					事前：海外の世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。：		講義70分 小テスト20分(適宜) 模擬試験(適宜)	
13~15	(5)テーマ別世界遺産 ①文化的景観 ②戦争・紛争 ③地震 ④危機遺産 ⑤負の遺産					事前：テーマ別に世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。		講義70分 小テスト20分(適宜) 模擬試験(適宜)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
世界遺産100(3級もしくは2級公式テキスト)授業内にて一括申し込み					世界遺産検定公式過去問題集				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。模擬試験・検定試験は学期末試験の評価には加算しない。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
世界遺産検定3級及び2級の実力をつけることをめざす。検定は年に数回行われるので受講の時期は自由である。基本は3級であるが2級受講者がいる場合は授業内に2級のための講義を設ける。もちろん受験の意思がなくても受講は可能である。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化交流史A (History of Cultural Exchange A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学等の文化学							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>本講義では、文化人類学をベースとして、文化が接触・交流する際に、どのような現象が生じるのかを基礎的な事項から考察する。文化とは何か、それが接触・交流するとはどのようなことかという視点をまずは身につけることから始めてゆく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>教科書的な「文化」認識から自由になること。自分が体験した異文化交流を学問的視点から捉えなおす。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	文化の新たな考え方					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
2	「自分」の中の異文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
3	赤坂憲雄『異人論』					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
4	文化の多重性					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
5	岡正雄『異人その他』					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
6	魔性の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
7	異人歓待儀礼とは					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
8	都市社会の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
9	エスニシティとは何か					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
10	エスニシティとは何か(2)					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
11	メイスアーティーンと多言語社会					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
12	創造される「民族」					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
13	文化交流と観光					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
14	人口移動と文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
15	試験あるいはレポート					事前：ノートの見直し 事後：		試験あるいはレポート	
教本： なし					参考文献： 授業中にたくさん紹介します。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>文化を理解することは、思っている以上に苦勞が多いことです。高校までののっぺりした文化の考え方を早く抜け出すことを心掛けてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	文化交流史B (History of Cultural Exchange B)						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学等の文化学							
	そ の 他								
<p>授業概要：</p> <p>同じ授業のAをベースに、さらなる交流のあり方を考察する。同じ現象でも、視点が変化することで全く異なる像が浮かび上がることも体験していただきたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>異文化をどのように理解するかに関して、自分の視点を確立する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	文化交流史Aの復習					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
2	文化変容の理論					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
3	地球規模の文化人類学					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
4	分裂生成					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
5	分裂生成Ⅱ					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
6	分裂生成Ⅲ					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
7	画像に表れた表象					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
8	制度化された異文化交流					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
9	「怠け者民族」の神話					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
10	「怠け者民族」の神話2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
11	文化分配論					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
12	文化分配論2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
13	文化分配論3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
14	「生活形態」とは何か					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
15	試験あるいはレポート					事前：ノートの見直し 事後：		試験あるいはレポート	
教本： なし					参考文献： 授業中にたくさん紹介します。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業で教わることから自分なりの視点を見つけるようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	文化心理学 (Cultural Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>自己表現のスタイルに「アサーティブ」というものがある。言語が多様であるように文化により自己表現も一律ではない。本講義は、心理学の視点からアサーティブな自己表現を学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>① 相手を立てつつ自己表現することの意義を学ぶ。 ② 文化が人間の心に及ぼす要因を実証的研究から分析し理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	アサーティブネスとは					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	アサーティブネスの査定について					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
3	自己成長を記録する					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
4	自己表現の権利とは何か					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
5	アサーティブな生き方とは					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
6	アサーティブネスの事例					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
7	アサーション・トレーニングの目標設定					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
8	アサーション・トレーニングのスキル					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
9	21世紀のアサーティブ・メッセージ					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
10	アサーティブに考えるとは					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
11	恐怖感情への対処法					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
12	トレーニング・プログラムについて					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
13	プログラムの進め方					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
14	アサーティブネスが平等な人間関係を築く意味					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本：					参考文献：				
<p>【増補改訂 セルフ・アサーション・トレーニング】、 菅沼憲治著、東京図書</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 自己分析及他者及び状況観察への取り組みが大切な授業です。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化人類学A (Cultural Anthropology A)						科目分類	専門科目	
担当教員	川添 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 人類の誕生と進化の歴史をおさえた上で、人間と社会について学んでいく。人間の基本的営みから文化的側面を学んだ後、具体的な身体加工実践をテーマに、身体の文化的側面について学ぶ。理解度についてはリアクション・ペーパー、小テストで確認する。									
授業目標： 1. 文化の普遍性と多様性を理解する。 2. 文化相対主義、自文化中心主義を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1・2	人間と文化：人類史、文化相対主義に学ぶ。ダーウィン「進化論」、「人種」概念の誤った認識を確認する。					事前：高校世界史 事後：1章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
3	個人・家族・コミュニティ：性差の知見の変遷、婚姻、親子関係の多様性、現代日本の家族観について学ぶ。					事前：LGBTs 記事 事後：3章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
4	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分	
5	人生と通過儀礼：分類、区分について学び、ライフサイクルについて考える。					事前：成人式とは 事後：4章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
6	宗教と世界観：人類史から信仰について学ぶ。現代世界の状況について議論を行う。					事前：クリスマスとは 事後：5章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
7	健康・治療・医療：身体の観念と体系の地域的多様性と歴史の変遷について学ぶ。					事前：健康のイメージ 事後：6章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
8	人間と死：死の判定、死者儀礼について学び、今日における死の問題について議論する。					事前：葬式のイメージ 事後：7章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
9	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分	
10	身体的人类学①：身体技法（文化的に規定された特定の身体所作について学ぶ）					事前：しぐさ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
11	身体的人类学②：体毛（髪型、ひげ、ムダ毛について学び議論する）					事前：脱毛のイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
12	身体的人类学③：衣（多様性、記号論について学び議論する）					事前：衣装のイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
13	身体的人类学④：化粧（メイクアップ、ボディペインティングについて学び議論する）					事前：化粧のイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
14	調査法：質的研究について学び、フィールドワークの特徴について理解する。					事前：アンケート経験 事後：2章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
15	まとめ					事前：疑問点整理 事後：試験準備する		講義60分、質疑応答30分	
教本： 波平恵美子『文化人類学』【カレッジ版】第4版、医学書院、¥2,100+税					参考文献： そのつど紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 文献や各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化人類学B (Cultural Anthropology B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 人類の誕生と進化の歴史をおさえた上で、人間と社会について学んでいく。人間の基本的営みから文化的側面を学んだ後、具体的な身体加工実践をテーマに、身体の文化的側面について学ぶ。理解度についてはリアクション・ペーパー、小テストで確認する。									
授業目標： 1. 文化の普遍性と多様性を理解する。 2. 文化相対主義、自文化中心主義を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1・2	人間と文化：人類史、文化相対主義に学ぶ。ダーウィン「進化論」、「人種」概念の誤った認識を確認する。					事前：高校世界史 事後：1章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
3	個人・家族・コミュニティ：性差の知見の変遷、婚姻、親子関係の多様性、現代日本の家族観について学ぶ。					事前：LGBTs 記事 事後：3章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
4	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分	
5	人生と通過儀礼：分類、区分について学び、ライフサイクルについて考える。					事前：成人式とは 事後：4章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
6	宗教と世界観：人類史から信仰について学ぶ。現代世界の状況について議論を行う。					事前：クリスマスとは 事後：5章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
7	健康・治療・医療：身体の観念と体系の地域的多様性と歴史の変遷について学ぶ。					事前：健康のイメージ 事後：6章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
8	人間と死：死の判定、死者儀礼について学び、今日における死の問題について議論する。					事前：葬式のイメージ 事後：7章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
9	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分	
10	身体的人类学①：身体技法（文化的に規定された特定の身体所作について学ぶ）					事前：しぐさ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
11	身体的人类学②：筋トレ（スポーツ、筋トレについて学び議論する）					事前：筋トレのイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
12	身体的人类学③：タトゥ（伝統面、ファッション面について学び議論する）					事前：タトゥのイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
13	身体的人类学④：美容整形（歴史と現状について学び議論する）					事前：美容整形のイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
14	調査法：質的研究について学び、フィールドワークの特徴について理解する。					事前：アンケート経験 事後：2章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
15	まとめ					事前：疑問点整理 事後：試験準備する		講義60分、質疑応答30分	
教本： 波平恵美子『文化人類学』【カレッジ版】第4版、医学書院、¥2,100+税					参考文献： そのつど紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 文献や各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	文 芸 創 作 (Literary Creation haiku)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 龍 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授 業 は、俳 句 を 創 作 し、鑑 賞 ・ 批 評 を 基 に 創 作 活 動 を 中 心 に お こ な う。</li> <li>・ 合 評 会 に よ り 討 議 に よ り、発 想 や 技 法 を 学 ぶ と 共 に、教 師 の 講 評 で さ ら に 深 め る。</li> </ul>									
授 業 目 標 :									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現 代 俳 句 に つ い て 理 解 し、言 語 感 覚 を 磨 く</li> <li>・ 合 評 会 に よ り、鑑 賞 眼 及 び 創 作 の 発 想 ・ 技 術 を 習 熟 す る。</li> </ul>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	現 代 俳 句 (オ リ エ ン テ ー シ ョ ン)					事 前 な し 事 後 :		講 義	
2	現 代 俳 句 と は 何 か (季 語 等 に つ い て)					事 前 : な し 事 後 : 復 習		鑑 賞 + 語 り 合 い	
3	俳 句 創 作 + 合 評					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 : 自 作 を 推 敲 す る		鑑 賞 + 合 評 会	
4	俳 句 創 作 + 合 評					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 : 自 作 を 推 敲 す る		鑑 賞 + 合 評 会	
5	俳 句 創 作 + 合 評					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 自 作 を 推 敲 す る :		鑑 賞 + 合 評 会	
6	松 尾 芭 蕉 の 推 敲					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 : 自 作 を 推 敲 す る		講 義 + 討 論	
7	俳 句 創 作 + 合 評					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 : 自 作 を 推 敲 す る		鑑 賞 + 合 評 会	
8	俳 句 創 作 + 合 評					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 : 自 作 を 推 敲 す る		鑑 賞 + 合 評 会	
9	俳 句 創 作 + 合 評					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 : 自 作 を 推 敲 す る		鑑 賞 + 合 評 会	
10	吟 行 + 選 句					事 前 : な し 事 後 : な し		吟 行 + 句 会	
11	俳 句 創 作 + 合 評					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 : 自 作 を 推 敲 す る		鑑 賞 + 合 評 会	
12	俳 句 創 作 + 合 評					事 前 : 俳 句 を 2 句 作 っ て く る 事 後 : 自 作 を 推 敲 す る		鑑 賞 + 合 評 会	
13	句 集 づ くり ①					事 前 : 自 作 句 か ら 6 句 選 ぶ 事 後 : 最 終 推 敲		句 集 づ くり	
14	句 集 づ くり ②					事 前 : ワ ー プ ロ で 整 え て く る 事 後 : 推 敲 す る		句 集 づ くり	
15	ま と め 文 芸 「森 の 里」 に ま と め る。					事 前 : な し 事 後 : な し		鑑 賞 会	
教 本 :					参 考 文 献 :				
季 語 集 (冬 ・ 新 年) 授 業 で 紹 介 し 購 入 す る。					そ の 都 度 授 業 中 に 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、俳 句 創 作 (60%)、合 評 力 (20%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
俳 句 を 楽 し み、日 本 の 文 化 を 身 に 着 け る 授 業 で す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	保育課程論 (Early Childhood Education Courses) (保育)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	濱中 啓二郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ることで、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。									
<b>授業目標：</b> 教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方と評価について） カリキュラムの意味と保育計画					事前：特になし 事後：本授業の復習		講義 90分	
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解：カリキュラム・マネジメントとは					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
3	幼稚園・保育所の歴史とカリキュラム（明治期・大正期・昭和期・平成期）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
4	認定こども園の歴史・法律・カリキュラム（創設の背景とその役割）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的展開					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
6	絵本を用いた保育実践と教育課程・保育課程					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
7	乳幼児期の子どもの発達と保育の計画					事前：子どもの発達の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
8	指導計画作成に当たっての基本的な考え方					事前：指導計画の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
9	指導計画作成の実際					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
10	幼稚園・保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
11	生涯学び続ける力の育成と教育課程・保育課程					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
12	地域社会を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：地域について知る 事後：本授業の復習		講義 60分、 グループ活動 30分	
13	命を大切にすることを培う保育実践と教育課程・保育課程					事前：道徳について知る 事後：本授業の復習		講義 90分	
14	自然環境を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：環境について調べる 事後：本授業の復習		講義 90分	
15	教育課程・保育課程の評価と今後の展望					事前：考えをまとめる 事後：特になし		講義 60分、 グループ討議 30分	
<b>教本：</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館(2017年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017年告示) フレーベル館(2013年) 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館(2017年告示) 谷田貝公昭・石橋哲成監修『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社(2018年)					<b>参考文献：</b> 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいください。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

ほ

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園) (Internship for Preschool Guidance (Kindergarten))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子 ・ 大 沢 裕 ・ 中 村 淳 子 ・ 小 野 和								
履 修 条 件	前 提 科 目	教 育 実 習、保 育 実 習 の 科 目 が 終 了 し て い る も の							
	そ の 他	幼 稚 園 教 諭 免 許 の み の 人 は、教 育 実 習 科 目 が 終 了 し て い る も の							
授 業 概 要 :									
保 育 ・ 教 育 者 と し て の 使 命 感 を 持 て る よ う、保 育 ・ 教 育 に 関 わ る 課 題 を 順 次 取 り 上 げ、そ れ に 対 す る 分 析 ・ 考 察 ・ 検 討 を 行 い、保 育 ・ 教 育 者 と し て の 総 合 的 な も の の 見 方 ・ 考 え 方 を 身 に つ け さ せ る。ま た そ れ と と も に、子 ど も や 保 護 者 を 援 助 す る 方 法 を 学 習 さ せ る。必 修 科 目 と 選 択 必 修 科 目 の 履 修 状 況 や、実 習 等 を 通 し て の 学 び を 踏 ま え、保 育 ・ 教 育 者 と し て 必 要 な 知 識 ・ 技 能 を 修 得 し た か を 振 り 返 り、確 認 さ せ る。授 業 形 式 と し て は、グ ル ー プ 討 議、ロ ー ル プ レ イ ン グ、事 例 研 究、現 地 調 査 を 含 む 演 習 を 基 本 と す る。必 要 に 応 じ て、テ ィ ー チ ン グ ア シ ス タ ン ト を 配 置 す る。									
授 業 目 標 :									
組 織 の 一 員 と し て、保 育 ・ 教 育 に 対 す る 使 命 感 や 情 熱 を 持 ち、保 育 ・ 教 育 者 と し て の 職 責 や 義 務 を 自 覚 し、保 護 者 に 対 し て も 良 好 な 関 係 を 築 き、子 ど も と 豊 かな 人 間 的 交 流 を 行 え る 資 質 能 力 を 養 う。こ の 科 目 は、確 固 た る 使 命 感 と 熱 意 を 持 っ て 教 育 や 保 育 を 行 う こ と の で き る 人 材 を 育 成 す る 科 目 で あ る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	保 育 の 内 容 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	講 義 概 要 に つ い て 一 履 修 カ ル テ を 元 に 説 明 一 保 育 や 教 育 現 場 に 出 る 前 に 身 に 付 け な け れ ば な ら ない こ と を 学 ぶ					事 前 : シ ラ バ ス を 下 読 み す る 事 後 : 自 分 の 目 標 を 定 め る		講 義 40 分、グ ル ー プ 討 議 20 分、 個 人 目 標 30 分	
2	保 育 ・ 教 育 者 の 使 命 感 ・ 責 任 感 ・ 愛 な ど を グ ル ー プ 討 議 し、そ れ ぞ れ の グ ル ー プ で 発 表 し 合 い、学 び を 深 め る					事 前 : 配 布 資 料 の 下 読 み 事 後 : グ ル ー プ 討 議 の ま と め		講 義 20 分、グ ル ー プ 討 議 20 分、 発 表 50 分	
3	保 育 ・ 教 育 者 に 求 め ら れ る も の 一 対 人 関 係 能 力 一 厚 木 市 子 ど も 育 成 課 委 員 と の 意 見 交 換 一 厚 木 市 の 子 育 て 政 策 に つ い て					事 前 : 市 の 子 育 て 政 策 の 下 調 べ 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		講 義 40 分 ・ 意 見 交 換 50 分、 レ ポ ー ト 提 出	
4	乳 幼 児 に 対 す る 共 感 的 理 解 一 子 ど も の 発 達 課 程 を 踏 ま え、乳 幼 児 に 対 す る 共 感 的 理 解 を 総 合 的 に 展 開 さ れ る こ と が 重 要					事 前 : 指 針 等 で 発 達 課 程 の 確 認 事 後 : 自 他 の 意 見 を ま と め る		講 義 60 分、グ ル ー プ 討 議 30 分	
5	生 き る 力 を 育 む 教 育 一 保 育 所 保 育 指 針、幼 稚 園 教 育 要 領 を も と に 学 ぶ					事 前 : 指 針 で 事 前 に 調 べ る 事 後 : 自 分 な り の 意 見 を 集 約		講 義 60 分、グ ル ー プ 討 議 30 分	
6	ク ラ ス 運 営 の 手 法 一 一 人 一 人 の 活 動 の 場 面 に 応 じ て、そ の 活 動 が 豊 か に な る よ う に ク ラ ス 運 営 を 考 え る					事 前 : 資 料 を 事 前 に 確 認 す る 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		園 長 と の 意 見 交 換 90 分	
7	協 同 す る 経 験 一 友 達 と 関 わ る 中 で、互 い の 思 い や 考 え を 共 有 し、共 通 の 目 的 の 実 現 に 向 け、考 え や 工 夫 に よ り 充 実 感 を 得 る					事 前 : 指 針 を 事 前 に 下 読 み す る 事 後 : 指 針 で 再 確 認 す る		講 義 60 分、グ ル ー プ 討 議 30 分	
8	特 別 支 援 教 育 一 特 別 な 配 慮 を 必 要 と す る 乳 幼 児 に 対 し て の 理 解 促 進 や、地 域 と の 連 携 を 学 ぶ					事 前 : 指 針 や 要 領 で 確 認 す る 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		講 義 60 分、グ ル ー プ 討 議 30 分	
9	指 導 計 画 一 指 導 案 作 成 一 指 導 計 画 を 作 成 し、実 際 に 演 じ た り、発 表 し た り し て、互 い に 学 び を 深 め る					事 前 : 自 分 な り の 資 料 を 探 す 事 後 : 他 の 人 の 意 見 も ま と め る		模 擬 授 業 の 作 成 90 分	
10	指 導 の 具 体 化 一 模 擬 授 業 一 具 体 的 に 模 擬 保 育 を 行 い、保 育 ・ 教 育 者 と し て の 資 質 を 深 め る					事 前 : 模 擬 授 業 の 事 前 準 備 事 後 : 模 擬 授 業 の 反 省 を す る		模 擬 授 業 の 発 表 と 反 省 90 分	
11	園 の 安 全 管 理 一 施 設 ・ 設 備 等 の 安 全 管 理 や 災 害 発 生 時 の 対 応 体 制 や 避 難 へ の 備 え な ど 具 体 的 に 学 ぶ					事 前 : 配 布 資 料 を 基 に 予 習 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		講 義 50 分、意 見 交 換 40 分	
12	保 育 現 場 の 実 際 一 認 定 こ ど も 園 見 学 ・ 演 習 一 見 学 や DVD の 観 賞 な ど から 現 場 の 実 際 を 学 ぶ					事 前 : 配 布 資 料 で 予 習 す る 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		DVD 観 賞 40 分、 レ ポ ー ト 30 分、意 見 交 換 20 分	
13	家 庭 と の 連 携 一 保 護 者 支 援 一 保 護 者 と 連 携 し て 子 ど も の 育 ち を 支 え る 視 点 を 学 ぶ					事 前 : 指 針 や 要 領 で 事 前 準 備 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		講 義 50 分、意 見 交 換 40 分	
14	保 育 現 場 に 出 る 前 に 一 こ ど も ・ 子 育 て 新 制 度 を 踏 ま え て 一 子 ど も ・ 子 育 て 新 制 度 に つ い て 具 体 的 に 学 ぶ					事 前 : 子 育 て 新 制 度 の 事 前 確 認 事 後 : 自 分 な り の 制 度 の 確 認		講 義 50 分、意 見 交 換 40 分	
15	こ れ ま で の 学 び の 振 り 返 り 一 保 育 ・ 教 育 者 と し て 必 要 な 知 識 ・ 技 能 を 習 得 し た か の 振 り 返 り、確 認 す る					事 前 : 振 り 返 り の 事 前 準 備 事 後 : 皆 の 意 見 を 聞 き ま と め る		グ ル ー プ 討 議 と 発 表	
教 本 :									
テ キ ス ト 「 幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領、幼 稚 園 教 育 要 領、保 育 所 保 育 指 針 」					参 考 文 献 :				
授 業 時、適 宜 指 示 す る。必 要 に 応 じ て プ リ ン ト を 配 布 す る。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
自 己 課 題 を 持 っ て 予 習 ・ 復 習 を 行 っ て く だ さ い。 配 布 資 料 お よ び 講 義 内 容 の 整 理 を 行 っ て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									



開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	保育原理 (Principles of Early Childhood Education)						科目分類	専門科目							
担 当 教 員	大沢 裕														
履 修 条 件	前提科目	なし													
	その他	なし													
<p>授業概要：</p> <p>保育・幼児教育の基礎をその知見に則り、広範囲に学ばせる。保育の理念、保育の意義と保育の必要性について把握させる。さらに、保育の場、歴史と現状、保育の目的・内容・方法の関連、保育の計画と評価の仕方、健康・安全、多様な保育ニーズへの対応の仕方、家庭・地域との連携、近年の保育動向・課題など、保育者として必須の基本的知識を習得させる。特に、現在の保育がどのような歴史的、社会的背景によって成立しているのかを考えさせ、保育の社会的役割について理解させる。授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。</p> <p>授業目標：</p> <p>保育の意義・理念について理解し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領・保育所保育指針における教育・保育の基本を把握する。保育の内容と方法の基礎を理解する。保育の思想と歴史の変遷について理解する。保育の現状と課題について認識する。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width:33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width:33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">○</td> <td style="text-align:center;">◎</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	◎	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○	◎														
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態							
1	保育の概念と理念					事前： 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
2	教育と福祉の関連					事前：福祉とは何かを考えておく 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
3	保育の意義・社会的役割					事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す		グループ討論 60分、 発表 30分							
4	諸外国の保育の思想と歴史					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
5	我が国の保育の思想と歴史					事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
6	幼稚園教育要領・保育所保育指針が示唆するもの					事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す		講義 60分、 グループ討論 30分							
7	遺伝と環境					事前：遺伝を考える 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
8	乳幼児と家庭					事前：家庭の子育てを考える 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
9	幼稚園・保育所・認定こども園の概要					事前：施設の種類を調べる 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
10	子どもの発達段階と子ども理解					事前：成長・発達の情報を得る 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
11	保育制度と保育行政					事前：待機児童の記事を探す 事後：ノートを読み返す		講義 90分							
12	保育の内容					事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す		講義 60分、 グループ討論 30分							
13	保育の方法—遊びと生活の原理					事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す		講義 60分、 グループ討論 30分							
14	保育者の使命と資質—保育者の専門性					事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す		講義 60分、 グループ討論 30分							
15	様々な保育実践と現代の保育課題					事前：時事問題の記事を読む 事後：		講義 90分							
<p>教本：</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版） 石橋哲成編著『コンパクト版 保育原理』一藝社</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、授業時に指示する。</p>										
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 保育者として必須の保育・福祉に関わる基礎的事項が理解でき、保育的なものの見方・考え方ができているかどうかを、複数回のレポート提出、筆記試験によって総合的に評価する。</p>															
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>保育の時事問題にいつも関心を持つこと。</p>															
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>															

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 ( 保 育 )	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 ( 英 文 )	保 育 実 習 I ( 施 設 ) ( Internship at a Facility I )						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子 ・ 小 野 和 ・ 古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 実 習 指 導 I ( 保 育 所 ・ 施 設 )							
	そ の 他	保 育 実 習 履 修 資 格 を 満 た し て い る こ と							
授 業 概 要 :									
1. 施 設 等 で の 体 験 を 通 じ て 、 施 設 の 役 割 や 機 能 、 保 育 の 職 務 ( 子 ど も た ち や 利 用 者 と の 関 わ り 、 他 の 職 員 と の 連 携 ) 等 を 理 解 す る 。 2. 施 設 等 で 生 活 し て い る 子 ど も や 利 用 者 の 活 動 を 観 察 し 、 一 人 一 人 の 子 ど も や 利 用 者 に 合 わ せ た 保 育 士 の 支 援 方 法 に つ い て 学 ぶ 。 3. 気 づ き や 保 育 士 か ら の 指 摘 事 項 を 踏 ま え て 、 反 省 会 で 出 さ れ た 内 容 か ら 自 分 自 身 の 課 題 を 明 確 に す る 。 4. 実 習 を 通 じ て 実 際 に そ の 場 に 身 を 置 き 、 体 験 す る こ と で 学 び を 深 め る 。 5. 施 設 等 で の 生 活 実 態 に 触 れ 、 子 ど も や 利 用 者 で の 家 庭 福 祉 ニーズ に 対 す る 理 解 力 、 判 断 力 を 養 う と と も に 、 支 援 す る た め に 必 要 と さ れ る 能 力 を 養 う 。									
授 業 目 標 :									
1. 児 童 福 祉 施 設 や 社 会 福 祉 施 設 等 の 役 割 や 機 能 を 具 体 的 に 理 解 す る 。 2. 観 察 や 子 ど も ・ 利 用 者 と の か か 関 わ り を 通 じ て 子 ど も ・ 利 用 者 へ の 理 解 を 深 め る 。 3. 既 習 の 教 科 内 容 を 踏 ま え 、 子 ど も の 保 育 ・ 利 用 者 の 生 活 等 及 び 保 護 者 並 び に 利 用 者 へ の 支 援 に つ い て 総 合 的 に 学 ぶ 。 4. 保 育 や 生 活 の 計 画 、 観 察 、 記 録 及 び 自 己 評 価 等 に つ い て 具 体 的 に 理 解 す る 。 5. 保 育 士 の 業 務 内 容 や 職 業 倫 理 に つ い て 具 体 的 に ま な ぶ 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1 ~ 15	< 児 童 福 祉 施 設 等 ( 保 育 所 以 外 ) に お け る 実 習 内 容 > 1. 施 設 の 役 割 と 機 能 ( 1 ) 施 設 に お け る 子 ど も や 利 用 者 の 生 活 と 保 育 士 の 援 助 や 関 わ り ( 2 ) 施 設 の 役 割 と 機 能 2. 子 ど も や 利 用 者 の 理 解 ( 1 ) 子 ど も や 利 用 者 の 観 察 と そ の 記 録 ( 2 ) 個 々 の 状 態 に 応 じ た 援 助 や 関 わ り 3. 施 設 に お け る 子 ど も や 利 用 者 の 生 活 と 環 境 ( 1 ) 計 画 に 基 づ く 活 動 や 援 助 ( 2 ) 子 ど も や 利 用 者 の 心 身 の 状 態 に 応 じ た 生 活 と 対 応 ( 3 ) 子 ど も や 利 用 者 の 活 動 と 環 境 ( 4 ) 健 康 管 理 、 安 全 対 策 と 理 解 4. 計 画 と 記 録 ( 1 ) 支 援 計 画 の 理 解 と 活 用 ( 2 ) 記 録 に 基 づ く 省 察 ・ 自 己 評 価 5. 専 門 職 と し て の 保 育 士 の 役 割 と 倫 理 ( 1 ) 保 育 士 の 業 務 内 容 ( 2 ) 職 員 間 の 役 割 分 担 や 連 携 ( 3 ) 保 育 士 の 役 割 と 職 業 倫 理 ま と め					事 前 : 実 習 前 は 指 定 資 料 の 予 習 実 習 中 は 翌 日 の 準 備 事 後 : 実 習 記 録 の 整 理 と 実 習 日 誌 の 記 入		児 童 福 祉 施 設 等 ( 保 育 所 ) 以 外 で の 実 習 ( 90 時 間 以 上 )	
教 本 : 講 義 内 で 指 定 資 料 配 布 す る 。					参 考 文 献 : 保 育 実 習 ( 保 育 所 ・ 施 設 ) 記 録 - 書 き 方 を マ ス タ ー す る た め に - 保 育 者 養 成 研 究 会 編 保 育 出 版 社				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 実 習 先 の 評 価 ( 50% ) 、 日 誌 ・ 記 録 等 ( 30% ) 、 そ の 他 ( 20% ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 各 実 習 施 設 に 対 す る 注 意 事 項 の 説 明 、 提 出 書 類 の 作 成 等 を 行 う の で 、 原 則 と し て 欠 席 は 認 め な い 。 ま た 、 実 習 提 出 書 類 の 遅 延 、 授 業 態 度 の 怠 惰 等 に よ っ て は 実 習 派 遣 が で き な く な る こ と も あ る の で 十 分 に 留 意 す る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習	
授業科目(英文)	保育実習 I (保育所) (Internship at a Preschool I)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	石橋優子・小野 和・古金悦子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	保育実習履修資格を満たしていること								
<b>授業概要：</b> 1. 保育所での体験を通して、保育所の役割や機能、保育の職務（子どもたちとの関わり、他の職員との連携）等を理解する。 2. 保育所で生活している子どもの活動を観察し、一人ひとりの子どもに合わせた保育士の支援方法について学ぶ。 3. 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。 4. 実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。 5. 家族と保育所の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。										
<b>授業目標：</b> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎						○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1～15	保育所の生活と一日の流れ 保育所保育指針の理解と保育の展開 子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解 子どもへの援助やかかわり  保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察、自己評価 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 まとめ					事前：実習準備 事後：記録・反省		実習 (90時間以上)		
<b>教本：</b> 講義内で指定資料配布する。					<b>参考文献：</b> 保育実習（保育所・施設）記録一書き方をマスターするために－ 保育者養成研究会編 保育出版社					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 実習先の評価（50%）、日誌・記録等（30%）、その他（20%）等で総合評価する。										
<b>学生へのアドバイス：</b> 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。										
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 ( 保 育 )	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 ( 英 文 )	保 育 実 習 II ( 保 育 所 ・ 施 設 ) ( Internship at a Preschool or Facility II )						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子 ・ 小 野 和 ・ 古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 実 習 I ・ 保 育 実 習 指 導 II							
	そ の 他	保 育 実 習 I を 履 修 済 み で あ る こ と。							
授 業 概 要 :									
<p>1. 保 育 実 習 I で 学 ん だ 基 本 的 内 容 を 踏 ま え 、 子 ど も の 保 育 及 び 保 護 者 支 援 、 利 用 者 へ の 理 解 及 び 生 活 に つ い て 総 合 的 に 学 び 、 保 育 士 と し て 必 要 な 資 質 、 能 力 、 技 術 を 修 得 す る。</p> <p>2. 保 育 所 実 習 に お い て は 、 部 分 実 習 や 責 任 実 習 を 通 じ て 、 子 ど も と の か か わ り 方 や 保 育 技 術 及 び 実 践 力 を 身 に 付 け る 。 施 設 実 習 に お い て は 、 利 用 者 の 年 齢 や 発 達 段 階 、 症 状 や 特 性 に 応 じ た 関 わ り 方 や 養 護 技 術 、 介 助 技 術 の 実 践 力 を 身 に 付 け る。</p> <p>3. 保 育 士 と 共 に 保 育 所 ま た は 施 設 に お け る 業 務 な ど を 経 験 し な が ら 、 臨 機 応 変 な 対 応 や 判 断 力 を 身 に 付 け る。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 保 育 所 や 施 設 の 役 割 や 機 能 に つ い て 、 具 体 的 な 実 践 を 通 じ て 理 解 を 深 め る。</p> <p>2. 子 ど も や 利 用 者 の 観 察 や か か わ り の 視 点 を 明 確 に す る こ と を 通 じ て 、 理 解 を 深 め る。</p> <p>3. 既 習 の 教 科 目 や 保 育 実 習 I の 経 験 を 踏 ま え 、 子 ど も の 保 育 及 び 子 育 て 支 援 、 利 用 者 へ の 理 解 及 び 生 活 に つ い て 総 合 的 に 理 解 す る。</p> <p>4. 保 育 所 や 施 設 で の 生 活 の 計 画 、 実 践 、 観 察 、 記 録 及 び 自 己 評 価 等 に つ い て 、 実 際 に 取 り 組 み 、 理 解 を 深 め る。</p> <p>5. 保 育 士 の 業 務 内 容 や 職 業 倫 理 に つ い て 、 具 体 的 な 実 践 に 結 び 付 け て 理 解 す る。</p> <p>6. 実 習 に お け る 自 己 の 課 題 を 明 確 化 す る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1 ~ 15	<p>《 保 育 所 実 習 》</p> <p>保 育 実 習 I の 体 験 を 基 に 、 乳 児 、 幼 児 と 積 極 的 に 関 わ り 、 指 導 の 実 地 経 験 を 積 む 。 学 校 で 学 ん だ 理 論 や 技 術 を 実 際 の 現 場 で の 指 導 体 験 と 結 び 付 け 、 自 ら の 保 育 観 、 目 標 を 確 立 す る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参 加 実 習 ・ 責 任 実 習 を 行 な う。</li> <li>(1) 保 育 所 で の 保 育 を 実 際 に 体 験 し 、 保 育 士 と し て の 指 導 力 、 技 術 を 身 に 付 け る。</li> <li>(2) 保 育 士 の 立 場 に 立 っ て 指 導 計 画 を 立 案 し 、 そ の 指 導 を 体 験 す る。</li> <li>(3) 乳 児 、 幼 児 の 安 全 、 衛 生 面 に 対 す る 配 慮 と 措 置 に つ い て 修 得 す る。</li> <li>(4) 一 人 一 人 の 乳 幼 児 に つ い て の 理 解 を 深 め 、 適 切 な 指 導 と 対 応 を 体 験 す る。</li> <li>(5) 保 育 士 と し て の 責 任 感 、 使 命 感 を 学 び 、 子 ど も 達 の た め の 環 境 作 り を 考 え る。</li> <li>○ 保 育 所 の 役 割 や 機 能 に つ い て 理 解 を 深 め る。</li> <li>○ 観 察 に 基 づ く 保 育 を 理 解 す る。</li> <li>○ 子 ど も の 保 育 及 び 保 護 者 ・ 家 庭 へ の 支 援 と 地 域 社 会 な ど の 連 携 を 理 解 す る。</li> <li>○ 保 育 計 画 の 作 成 ・ 実 践 ・ 観 察 ・ 記 録 ・ 評 価 を 体 験 し 、 理 解 す る。</li> <li>○ 保 育 士 の 業 務 と 職 業 倫 理 に つ い て の 理 解 を 深 め る。</li> <li>○ 自 己 課 題 を 明 確 化 す る。</li> </ul> <p>《 施 設 実 習 》</p> <p>保 育 実 習 I の 体 験 を 基 に 、 利 用 者 の 実 践 活 動 の 状 況 を 見 学 、 観 察 、 参 加 す る こ と に よ り 、 そ れ ぞ れ の 施 設 の 意 義 、 保 育 士 の 職 務 内 容 や 人 的 、 物 的 環 境 が 実 際 の 生 活 の 中 で ど の よ う に 活 か さ れ て い る か を 理 解 し 学 ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自 己 の 課 題 の 明 確 化。</li> <li>○ 実 習 施 設 の 目 的 や 機 能 に つ い て 理 解 す る。</li> <li>○ 実 習 施 設 の 一 日 の 流 れ に つ い て 理 解 し 、 参 加 す る。</li> <li>○ 利 用 者 の 観 察 や 、 関 わ り を 通 じ て 理 解 を 深 め る。</li> <li>○ 支 援 計 画 に つ い て 学 ぶ。</li> <li>○ 利 用 者 と 生 活 を 共 に す る こ と に よ り 、 養 護 技 術 、 介 助 技 術 を 習 得 す る。</li> <li>○ 職 員 間 の 役 割 分 担 と 、 チ ャ ム ワ ー ク の 在 り 方 に つ い て 学 ぶ。</li> <li>○ 施 設 の 行 事 や 地 域 に お け る 活 動 、 交 流 な ど を 通 じ て 、 施 設 と 家 庭 ・ 地 域 社 会 と の 関 係 に つ い て 理 解 す る。</li> <li>○ 指 導 計 画 の 作 成 、 実 践 、 自 己 評 価 、 反 省 を す る。</li> <li>○ 利 用 者 の 最 善 の 利 益 、 権 利 擁 護 に つ い て の 配 慮 を 学 ぶ。</li> <li>○ 保 育 士 の 業 務 と 職 業 倫 理 に つ い て の 理 解 を 深 め る。</li> <li>○ 安 全 及 び 疾 病 予 防 へ の 配 慮 に つ い て 理 解 す る。</li> </ul>					<p>事 前 : 実 習 前 は 指 定 資 料 の 予 習 実 習 中 は 翌 日 の 準 備</p> <p>事 後 : 保 育 記 録 の 整 理 と 実 習 日 誌 の 記 入</p>		<p>保 育 所 ま た は 施 設 で の 実 習 ( 90 時 間 以 上 )</p>	
<p>教 本 : 講 義 内 で 指 定 資 料 配 布 す る。</p> <p>参 考 文 献 : 保 育 実 習 ( 保 育 所 ・ 施 設 ) 記 録 一 書 き 方 を マ ス タ ー す る た め に ー 保 育 者 養 成 研 究 会 編 保 育 出 版 社</p>									
<p>成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :</p> <p>実 習 先 の 評 価 ( 50% ) 、 日 誌 ・ 記 録 等 ( 30% ) 、 そ の 他 ( 20% ) 等 で 総 合 評 価 す る。</p>									
<p>学 生 へ の ア ド バ イ ス :</p> <p>各 実 習 園 に 対 す る 注 意 事 項 の 説 明 、 提 出 書 類 の 作 成 等 を 行 う の で 、 原 則 と し て 欠 席 は 認 め な い 。 ま た 、 実 習 提 出 書 類 の 遅 延 、 授 業 態 度 の 怠 惰 等 に よ っ て は 実 習 派 遣 が で き な く な る こ と も あ る の で 十 分 に 留 意 す る こ と。</p>									
<p>オ フ ィ ス ア ワ ー :</p> <p>初 回 講 義 日 に 伝 え る。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	保育実習指導 I (保育所) (Guidance on Internship at Preschool I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋優子・小野 和・古金悦子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	保育実習履修資格を満たしていること							
授業概要： 保育所実習の準備を行う。保育所実習と並行して行われる授業で、実習の目的、保育所の機能、保育士の職務内容や実習手続きの書類の作成について学習する。また、保育所保育指針の内容を理解し、実習生として保育所生活に参加することをイメージする。子どものを理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。									
授業目標： ①保育所実習の事前準備としての心構えをしっかりと理解し、態度や意欲を持つようにする。②積極的に授業に参加をし、実習の課題を明確にできる。③保育者としての能力、資質を身に付けることがどういうことか理解し、実習で生かせるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	保育の内容授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	保育所実習の意義、目的、心得を知る。施設実習についての説明をする					事前：シラバスを読んでおく 事後：指定資料を確認し、記入する		講義 70分 グループワーク 20分	
2	保育所実習の目的を理解する。施設実習の実習先を探し、申し込みをする					事前：指定資料の予習をする 事後：指定資料を作成する		講義 60分 個別 30分	
3	実習のてびきにそって実習前に準備すること。提出書類について等説明する					事前：作成資料の確認をする 事後：実習のてびきを読む		講義	
4	保育実習報告会に参加し、先輩の話から学ぶ					事前：指定資料の予習をする 事後：課題レポートを作成する		発表会	
5	実習先提出書類作成指導を行う。実習課題を明確にする					事前：指定資料の予習をする 事後：実習課題をまとめる		講義 30分 資料作成 60分	
6	持ち物、身だしなみについて、実習のてびきをもとに話し合う					事前：実習のてびきを読む 事後：レポート作成		講義 30分 グループワーク 60分	
7	オリエンテーションについて説明する					事前：実習日誌を見ておく 事後：実習園について調べる		講義 60分 グループワーク 30分	
8	保育所の一日と流れ、実習日誌の書き方について学ぶ					事前：指定資料の予習をする 事後：指定資料の復習をする		講義 60分 グループワーク 30分	
9	指導計画の作成について学ぶ。「手遊び」の指導案を作成する					事前：教材を探す 事後：指導案を清書する		講義 30分 個別 60分	
10	模擬保育を実施する					事前：模擬保育の準備 事後：記録をまとめる		模擬保育	
11	指導計画の作成について、全員の模擬保育を振り返り、修正指導案を作成する					事前：記録を読み返す 事後：指導案を清書する		講義 20分 グループワーク 50分 発表 20分	
12	絵本読み聞かせ指導計画の作成をする。導入・展開・まとめまでの形で計画していく					事前：教材研究する 事後：指導案を清書する		講義 20分 個別 70分	
13	模擬保育の実施①（1人10分として、実施し、評価・反省を行う）					事前：模擬保育の準備 事後：記録をまとめる		模擬保育	
14	模擬保育の実施②（1人10分として、実施し、評価・反省を行う）					事前：模擬保育の準備 事後：記録をまとめる		模擬保育	
15	模擬保育の評価と反省をする。修正指導案を作成し、提出する					事前：指導案を見直す 事後：巡回指導教員へ挨拶に行く		講義 30分 グループワーク 60分	
教本： 講義内で指定資料配布する。					参考文献： 幼稚園・保育所実習ハンドブック 田中まさ子 編 ㈱みらい				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（50%）、その他（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として遅刻欠席は認めない。また実習先への提出書類の遅延、授業態度の怠惰等で実習の派遣ができなくなることもあるので十分に留意をすること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	保育実習指導Ⅰ(施設)(Guidance on Internship at PreschoolⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋優子・小野 和・古金悦子								
履 修 条 件	前提科目	保育所実習指導Ⅰ(保育所)が終了していること							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>施設実習の準備を行う。施設実習と並行して行われる授業で、実習の目的、施設養護における保育士の在り方や施設の機能、保育士の職務内容や実習手続きの書類の作成について学習する。また、保育所保育指針の内容を理解し、実習生として施設生活に参加することをイメージする。子どもや利用者を理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。</p> <p>授業目標：</p> <p>①施設実習の事前準備としての心構えをしっかりと理解し、態度や意欲を持つようにする。②積極的に授業に参加をし、実習の課題を明確にできる。③保育者としての能力、資質を身に付けることがどういうことか理解し、実習で生かせるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	保育の内容授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	保育所実習の振り返りと自己課題の明確化 保育所実習における反省をし、自己課題ををしっかりと確認する					事前：保育所実習の振り返り 事後：自己課題を確認する		実習評価の反省 60分、 自己課題の確認 30分	
2	施設実習の目的理解 実習先による目的と内容の理解(各実習施設を理解をする)					事前：施設実習の目的理解 事後：実習のまとめをする		講義 90分	
3	実習施設の理解と実習内容・個人票について説明する					事前：実習施設の確認をする 事後：書類の整理をする		講義 60分、意見交換 30分	
4	施設種別ごとの理解をし、実習内容を各自調査する					事前：自分の実習先の確認 事後：調査後の整理をする		講義 30分、調査 60分	
5	DVDを鑑賞する。(乳児園や児童養護施設について理解する) 鑑賞後、レポート提出をする					事前：施設の種別の確認する 事後：レポートを作成する		DVD 30分、意見交換 30分、 レポート作成 30分	
6	DVDを鑑賞する。(施設実習の実際について理解する) 鑑賞後、レポート提出をする					事前：施設の種別の確認する 事後：レポートを作成する		DVD 30分、意見交換 30分、 レポート作成 30分	
7	実習先提出書類作成指導①自分の実習先に対応するための準備をする (各自の目標や課題、実習にあたっての課題を考える)					事前：実習の具体的内容把握 事後：課題を考える		講義 30分、 調査・課題検討 60分	
8	実習先提出書類作成指導②自分の実習先に対応するため各自の目標や課題、 実習にあたっての課題を書く					事前：実習の具体的内容把握 事後：課題を再確認する		講義 30分、書類作成 60分	
9	実際の作業所に見学に行き、障害者の社会参加について学ぶ					事前：見学の質問を考える 事後：見学のまとめをする		作業所 90分	
10	作業所見学後の意見交換と自己課題の確認をする。レポート提出					事前：意見交換の準備をする 事後：レポート提出		意見交換 30分、自己課題 30分、 レポート 30分	
11	実習日誌の作成指導①…一日の流れを把握する					事前：施設の全体把握をする 事後：一日の流れを再確認		講義 60分、意見交換 30分	
12	実習日誌の作成指導②…一日の課題に対する反省について、書き方を理解する					事前：課題について検討 事後：書き方の見直しをする		講義 60分、意見交換 30分	
13	オリエンテーションについて説明する (具体的に電話の掛け方等実習の手引きを参考に学ぶ)					事前：実習手引きを準備する 事後：電話応答を確認する		講義 60分、意見交換 30分	
14	参加、観察実習の留意点を説明する					事前：実習手引きを準備する 事後：実習の再確認をする		講義 60分、意見交換 30分	
15	実習評価と反省					事前：評価と反省をまとめる 事後：自己評価の確認をする		講義 60分、意見交換 30分	
教本： 講義内で指定資料配布する。					参考文献： 幼稚園・保育所実習ハンドブック 田中まさ子 編(株)みらい				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(50%)、その他(20%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また実習先への提出書類の遅延、授業態度の怠惰等で実習の派遣ができなくなることもあるので十分に留意をすること。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 指 導 Ⅱ (保 育 所 ・ 施 設) (Guidance on Internship at Preschool Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子 ・ 小 野 和 ・ 古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 実 習 Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
① 保 育 実 習 Ⅰ で 学 ぶ 基 本 的 内 容 を 踏 ま え、保 育 士 と し て 必 要 な 資 質、能 力、技 術 を 修 得 す る。② 部 分 実 習 や 責 任 実 習 を 通 し て、保 育 技 術 及 び 実 践 力 を 身 に 付 け る。施 設 実 習 に お い て は、利 用 者 の 年 齢 や 発 達 段 階、症 状 や 特 性 に 応 じ た 関 わ り 方 や 養 護 技 術、介 助 技 術 の 実 践 力 を 身 に 付 け る。③ 保 育 士 と し て 臨 機 応 変 な 対 応 や 判 断 力 を 身 に 付 け る。									
授 業 目 標 :									
① 保 育 所 や 施 設 の 役 割 や 機 能 に つ い て、具 体 的 な 実 践 を 通 し て 理 解 を 深 め る。② 子 ども や 利 用 者 の 観 察 や か か わ り の 視 点 を 明 確 に す る こ と で 理 解 を 深 め る。③ 既 習 の 教 科 目 や 保 育 実 習 Ⅰ の 経 験 を 踏 ま え、子 ども の 保 育 及 び 子 育 て 支 援、利 用 者 へ の 理 解 及 び 生 活 に つ い て 総 合 的 に 理 解 す る。④ 保 育 所 や 施 設 で の 生 活 の 計 画、実 践、観 察、記 録 及 び 自 己 評 価 等 に つ い て、実 際 に 取 り 組 み、理 解 を 深 め る。⑤ 保 育 士 の 業 務 内 容 や 職 業 倫 理 に つ い て、具 体 的 な 実 践 に 結 び 付 け て 理 解 す る。⑥ 実 習 に お け る 自 己 の 課 題 を 明 確 化 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	保 育 の 内 容 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	実 習 Ⅰ の 学 び を 振 り 返 り、実 習 Ⅱ の 意 義、目 的、心 得 等 に つ い て 理 解 す る。					事 前：シ ラ バ ス を 読 む 事 後：指 定 資 料 の 確 認 を す る		講 義 30 分、 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分、発 表 30 分	
2	実 習 Ⅱ の 目 的 を 理 解 し、後 輩 に 向 け て 実 習 報 告 会 を 行 な う。そ の 際 の 発 表 原 稿 を 準 備 し て い く。					事 前：実 習 日 誌 を 見 直 す 事 後：報 告 会 発 表 原 稿 作 成		講 義 20 分、グ ル ー プ ワ ー ク 60 分 発 表 10 分	
3	実 習 報 告 会 に 参 加 し、自 身 の 経 験 を 発 表 す る と と も に 他 者 の 発 表 か ら 学 ぶ。					事 前：発 表 に 向 け て 練 習 す る 事 後：感 想 文 を 作 成 す る		発 表 会	
4	実 習 の 目 的 と 留 意 点 を 踏 ま え オ リ エ ン テ ー シ ョ ン に つ い て 確 認 し、実 習 先 提 出 書 類 の 作 成 を 行 な う。					事 前：実 習 の 手 引 き を 読 む 事 後：書 類 を 完 成 さ せ る		講 義 を 中 心 に 各 自 で 書 類 を 作 成 す る。	
5	保 育 実 習 Ⅰ の 反 省 か ら 各 自 の 実 習 課 題 を 明 確 に し、書 類 を 作 成 す る。					事 前：実 習 日 誌 を 見 直 す 事 後：実 習 課 題 を 書 く		講 義 30 分、 資 料 作 成 で の 個 別 指 導 60 分	
6	部 分 実 習 に 向 け て、指 導 計 画 を 作 成 す る。そ の 際 の 教 材 や 環 境 構 成 に つ い て 検 討 し て い く。					事 前：教 材 研 究 を し て お く 事 後：指 導 案 を 作 成 す る		講 義 30 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、 個 別 40 分	
7	指 導 計 画 を 作 成 し て い く 中 で、保 育 者 の 援 助 や 子 ども の 活 動 に つ い て 見 直 し、ね ら い に 沿 っ た 計 画 が 立 て ら れ る よ う に す る。					事 前：指 導 案 の 見 直 し を す る 事 後：模 擬 保 育 の 準 備 を す る		講 義 30 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、 個 別 40 分	
8	模 擬 保 育 の 実 施 (前 半。一 人 あ た り 15 分 と す る た め 2 回 に 分 け て 行 な う)					事 前：指 導 案 を 読 ん で お く 事 後：反 省 と 評 価 を 記 入 す る		模 擬 保 育 ・ 講 評	
9	模 擬 保 育 の 実 施 (後 半) 模 擬 保 育 実 施 後 振 り 返 り と 評 価、反 省 を す る。					事 前：指 導 案 を 読 ん で お く 事 後：反 省 と 評 価 を 記 入 す る		模 擬 保 育 ・ 講 評	
10	責 任 実 習 に 向 け て、指 導 計 画 を 作 成 す る。そ の 際 の 教 材 や 環 境 構 成 に つ い て 検 討 し て い く。					事 前：教 材 研 究 を す る 事 後：指 導 案 を 書 い て み る		講 義 30 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、 個 別 40 分	
11	責 任 実 習 の 中 で、保 育 者 の 援 助 や 子 ども の 活 動 に つ い て 指 導 計 画 を 見 直 し、ね ら い に 沿 っ た 計 画 が 立 て ら れ る よ う に す る。					事 前：指 導 案 の 見 直 し を す る 事 後：指 導 案 の 修 正 を す る		講 義 30 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、 個 別 40 分	
12	責 任 実 習 場 面 で の 模 擬 保 育 を 実 施 し、振 り 返 り、反 省 ・ 評 価 を 行 な う。(前 半。一 人 15 分 と す る た め 2 回 に 分 け て 実 施)					事 前：指 導 案 を 読 ん で お く 事 後：反 省 と 評 価 を 記 入 す る		模 擬 保 育 ・ 講 評	
13	責 任 実 習 場 面 で の 模 擬 保 育 を 実 施 し、振 り 返 り、反 省 ・ 評 価 を 行 な う。(後 半)					事 前：指 導 案 を 読 ん で お く 事 後：反 省 と 評 価 を 記 入 す る		模 擬 保 育 ・ 講 評	
14	子 ども 及 び 利 用 者 の 最 善 の 利 益、権 利 擁 護 に つ い て の 配 慮 を 学 び、保 育 士 の 業 務 と 職 業 倫 理 に つ い て の 理 解 を 深 め る。					事 前：指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後：配 付 資 料 を ま と め る		講 義 50 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、 発 表 20 分	
15	実 習 評 価 と 反 省 と し て 事 後 に 行 な う。					事 前：実 習 日 誌 を 見 直 す 事 後：お 礼 状 を 作 成 す る		講 義、各 自 の 報 告、意 見 交 換	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 内 で 指 定 資 料 配 布 す る。					幼 稚 園 ・ 保 育 所 実 習 ハ ン ド ブ ッ ク 田 中 ま さ 子 編 (株)み ら い				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、課 題 レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
学 外 施 設 で の 実 習 に 関 わ る 授 業 で あ る の で、原 則 と し て 遅 刻 ・ 欠 席 は 認 め な い。ま た 提 出 書 類 の 遅 延、授 業 態 度 の 怠 惰 等 で 実 習 の 派 遣 が で き な く な る こ と も あ る の で 十 分 に 留 意 を す る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 ( 保 育 )	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 ( 英 文 )	保 育 実 践 演 習 ( Internship for Preschool Guidance )						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子 ・ 大 沢 裕 ・ 中 村 淳 子 ・ 小 野 和								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 実 習 科 目 が 終 了 し て い る も の							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
保 育 者 と し て の 使 命 感 を 持 て る よ う 、 保 育 に 関 わ る 課 題 を 順 次 取 り 上 げ 、 そ れ に 対 す る 分 析 ・ 考 察 ・ 検 討 を 行 い 、 保 育 者 し て の 総 合 的 な も の の 見 方 ・ 考 え 方 を 身 に つ け さ せ る 。 ま た そ れ と と も に 、 子 ど も や 保 護 者 を 援 助 す る 方 法 を 学 習 さ せ る 。 必 修 科 目 と 選 べ 修 科 目 の 履 修 状 況 や 、 実 習 等 を 通 じ て の 学 び を 踏 ま え 、 保 育 者 と し て 必 要 な 知 識 ・ 技 能 を 修 得 し た か を 振 り 返 り 、 確 認 さ せ る 。 授 業 形 式 と し て は 、 グ ル ー プ 討 議 、 ロ ー ル プ レ イ ン グ 、 事 例 研 究 、 現 地 調 査 を 含 む 演 習 を 基 本 と す る 。 必 要 に 応 じ て 、 テ ー チ ン グ ア シ ス タ ン ト を 配 置 す る 。									
授 業 目 標 :									
組 織 の 一 員 と し て 、 保 育 に 対 す る 使 命 感 や 情 熱 を 持 ち 、 保 育 者 と し て の 職 責 や 義 務 を 自 覚 し 、 保 護 者 に 対 し て も 良 好 な 関 係 を 築 き 、 子 ど も と 豊 か な 人 間 的 交 流 を 行 へ る 資 質 能 力 を 養 育 せ る 。 こ の 科 目 は 、 確 固 た る 使 命 感 と 熱 意 を 持 っ て 保 育 を 行 う こ と の で き る 人 材 を 育 成 す る 科 目 で あ る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ○ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	講 義 概 要 に つ い て 一 履 修 カ ル テ を 元 に 説 明 一 保 育 に 出 る 前 に 身 に 付 け ね ば な ら ない こ と を 学 ぶ					事 前 : シ ラ バ ス を 下 読 み す る 事 後 : 自 分 の 目 標 を 定 め る		講 義 40 分 、 グ ル ー プ 討 議 20 分 、 個 人 目 標 30 分	
2	保 育 ・ 教 育 者 の 使 命 感 ・ 責 任 感 ・ 愛 な ど を グ ル ー プ 討 議 し 、 そ れ ぞ れ の グ ル ー プ で 発 表 し 合 い 、 学 び を 深 め る					事 前 : 配 布 資 料 の 下 読 み 事 後 : グ ル ー プ 討 議 の ま と め		講 義 20 分 、 グ ル ー プ 討 議 20 分 、 発 表 50 分	
3	保 育 者 に 求 め ら れ る も の 一 対 人 関 係 能 力 一 厚 木 市 子 ど も 育 成 課 委 員 と の 意 見 交 換 一 厚 木 市 の 子 育 て 政 策 に つ い て					事 前 : 市 の 子 育 て 政 策 の 下 調 べ 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		講 義 40 分 ・ 意 見 交 換 50 分 、 レ ポ ー ト 提 出	
4	乳 幼 児 に 対 す る 共 感 的 理 解 一 子 ど も の 発 達 課 程 を 踏 ま え 、 乳 幼 児 に 対 す る 共 感 的 理 解 を 総 合 的 に 展 開 さ れ る こ と が 重 要					事 前 : 指 針 等 で 発 達 課 程 の 確 認 事 後 : 自 他 の 意 見 を ま と め る		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
5	生 き る 力 を 育 む 教 育 一 保 育 所 保 育 指 針 を も と に 学 ぶ					事 前 : 指 針 で 事 前 に 調 べ る 事 後 : 自 分 な り の 意 見 を 集 約		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
6	ク ラ ス 運 営 の 手 法 一 一 人 一 人 の 活 動 の 場 面 に 応 じ て 、 そ の 活 動 が 豊 か に な る よ う に ク ラ ス 運 営 を 考 え る					事 前 : 資 料 を 事 前 に 確 認 す る 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		園 長 と の 意 見 交 換 90 分	
7	協 同 す る 経 験 一 友 達 と 関 わ る 中 で 、 互 い の 思 い や 考 え を 共 有 し 、 共 通 の 目 的 の 実 現 に 向 け 、 考 え や 工 夫 に よ り 充 実 感 を 得 る					事 前 : 指 針 を 事 前 に 下 読 み す る 事 後 : 指 針 で 再 確 認 す る		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
8	特 別 支 援 教 育 一 特 別 な 配 慮 を 必 要 と す る 乳 幼 児 に 対 し て の 理 解 促 進 や 、 地 域 と の 連 携 を 学 ぶ					事 前 : 指 針 や 要 領 で 確 認 す る 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
9	指 導 計 画 一 指 導 案 作 成 一 指 導 計 画 を 作 成 し 、 実 際 に 演 じ た り 、 発 表 し た り し て 、 互 い に 学 び を 深 め る					事 前 : 自 分 な り の 資 料 を 探 す 事 後 : 他 の 人 の 意 見 も ま と め る		模 擬 授 業 の 作 成 90 分	
10	指 導 の 具 体 化 一 模 擬 授 業 一 具 体 的 に 模 擬 保 育 を 行 い 、 保 育 ・ 教 育 者 と し て の 資 質 を 深 め る					事 前 : 模 擬 授 業 の 事 前 準 備 事 後 : 模 擬 授 業 の 反 省 を す る		模 擬 授 業 の 発 表 と 反 省 90 分	
11	園 の 安 全 管 理 一 施 設 ・ 設 備 等 の 安 全 管 理 や 災 害 発 生 時 の 対 応 体 制 や 避 難 へ の 備 え な ど 具 体 的 に 学 ぶ					事 前 : 配 布 資 料 を 基 に 予 習 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		講 義 50 分 、 意 見 交 換 40 分	
12	保 育 現 場 の 実 際 一 認 定 こ ど も 園 見 学 ・ 演 習 一 見 学 や DVD の 観 賞 な ど か ら 現 場 の 実 際 を 学 ぶ					事 前 : 配 布 資 料 で 予 習 す る 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		DVD 観 賞 40 分 、 レ ポ ー ト 30 分 、 意 見 交 換 20 分	
13	家 庭 と の 連 携 ・ 保 護 者 支 援 一 保 護 者 と 連 携 し て 子 ど も の 育 ち を 支 え る 視 点 を 学 ぶ					事 前 : 指 針 や 要 領 で 事 前 準 備 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		講 義 50 分 、 意 見 交 換 40 分	
14	保 育 現 場 に 出 る 前 に 一 こ ど も ・ 子 育 て 新 制 度 を 踏 ま え て 一 子 ど も ・ 子 育 て 新 制 度 に つ い て 具 体 的 に 学 ぶ					事 前 : 子 育 て 新 制 度 の 事 前 確 認 事 後 : 自 分 な り の 制 度 の 確 認		講 義 50 分 、 意 見 交 換 40 分	
15	こ れ ま で の 学 び の 振 り 返 り 一 保 育 者 と し て 必 要 な 知 識 ・ 技 能 を 習 得 し た か の 振 り 返 り 、 確 認 す る					事 前 : 振 り 返 り の 事 前 準 備 事 後 : 皆 の 意 見 を 聞 き ま と め る		グ ル ー プ 討 議 と 発 表	
教 本 : テ キ ス ト 【 幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領 、 幼 稚 園 教 育 要 領 、 保 育 所 保 育 指 針 】					参 考 文 献 : 授 業 時 、 適 宜 指 示 す る 。 必 要 に 応 じ て プ リ ン ト を 配 布 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 ( 20% ) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 ( 50% ) 、 定 期 試 験 ( 30% ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 己 課 題 を 持 っ て 予 習 ・ 復 習 を 行 っ て く だ さ い 。 配 布 資 料 及 び 講 義 内 容 の 整 理 を 行 っ て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									



開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 相 談 支 援 (Support for Childcare Consultaion)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
初めに保育相談の意義と原則、保護者支援の基本を学ぶ。そのうえで、保育相談支援の実際について学び内容や方法を身に付ける。さらに、保育相談支援の行われている保育所、児童福祉施設等における保護者支援の実情についても事例等を通して学ぶ。授業では、ロールプレイ等を活用して技術等を実践的に学ぶ。									
授 業 目 標 :									
保育相談についての意義と基本について理解をする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	保 育 の 内 容 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	保育相談支援とは何かについて考える。					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
2	保育相談支援の意義について考える。 (保護者への保育相談と保育の特性、保育者の専門性)					事前：P11～26予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
3	保育相談支援の基本1 (子どもの最善の利益と福祉の重視について考える。)					事前：P33～36予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
4	保育相談支援の基本2 (子どもの成長・発達の喜びの共有について考える。)					事前：P37～40予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
5	保育相談支援の基本3 (保護者の養育力の向上のための基本について考える。)					事前：P51～69予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
6	保育相談支援の基本4 (信頼関係を基本とした対人援助の原則について考える。)					事前：P71～84予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
7	保育相談支援の基本5 (地域資源の活用と関係機関との連携・協力について考える。)					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
8	保育相談支援の実際1 (保育と保護者支援について考える。)					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
9	保育相談支援の実際2 (保護者支援の内容・方法・技術について考える。)					事前：P11～26予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
10	保育相談支援の実際3 (保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンスについて考える。)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
11	児童福祉施設における保育相談支援1 (保育所における支援の実際について考える。)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
12	児童福祉施設における保育相談支援2 (特別な支援を必要とする家庭への支援について考える。)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
13	児童福祉施設における保育相談支援 (要保育児童の家庭への支援)について考える。					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
14	児童福祉施設における保育相談支援1 (障害児施設、母子生活支援等における支援について考える。)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
15	保育相談支援の現状と課題について考える。					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
倉石哲也/大竹智編著『相談援助』ミネルヴァ書房					幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
現在社会においては、少子高齢化、核家族化などを背景に、子どもの虐待や育児不安の増加など多くの課題があります。このような状況に対応していくためには、保育者の相談支援力がより一層求められています。学習にあたっては、自学習課題を設定するなど主体的な学びを期待しています。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	保育内容(環境)(Early Childhood Education (Environment))						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	野末 晃秀									
履 修 条 件	前提科目									
	その他									
<p>授業概要： 身近な環境や事物に好奇心と探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れることで豊かな発達を遂げていく子どもの能力とそのための環境構成について学ぶ。子どもが能力を発揮する環境や事象、例えば、生物や自然現象、遊具・数量・図形に実際に触れ、各々の特性について学ぶ。授業方法は、演習、話し合い活動、グループ学習等を設定する。また、視聴覚教材の活用や模擬授業をビデオで記録するなど視聴覚機器等を使い学習効果を高める。</p>										
<p>授業目標： 領域「環境」のねらい、内容について理解を深めるとともに、幼児の発達段階に応じた環境の意義について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定した指導計画を作成することにより実践力を身に付ける。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	保育内容「環境」の意義について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)		
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領の5領域ねらいと内容について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)		
3	好奇心や思考力の芽生え、探究心を育てる指導（視聴覚教材）について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)		
4	人的環境としての友だち・保育者と物的環境としての園具・遊具・素材について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)		
5	自然環境としての動植物、日常生活の中での興味や関心、文字や数量の体験について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)		
6	幼稚園教育における評価と反省について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)		
7	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育との接続について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)		
8	保育の構想（長期の計画と短期の計画）について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)		
9	ねらい及び内容と環境構成について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)		
10	幼児の活動を豊かにするための教材研究（幼児と教材の関わり）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)		
11	季節にあった遊び、地域の自然を利用した遊びの構想（幼児理解に基づく指導計画の作成）について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)		
12	模擬授業の構想（準備、役割、教材の準備）について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)		
13	模擬授業の実施					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)		
14	模擬授業の反省と評価、改善（環境構成、保育者の援助、教材等は適切であったか）・第13回の模擬授業の相互評価を行う。（模擬保育記録ビデオの活用）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)		
15	保育内容「環境」から見た実践的課題について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：ノート整理・復習		講義(20分)・演習(70分)		
<p>教本： 谷田貝公昭 監修、大沢裕・野末晃秀 編著、コンパクト版 保育内容シリーズ③『環境』 一藝社（ISBN：9784863591523）</p>					<p>参考文献： 『保育所保育指針解説書』（最新版）厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省・厚生労働省</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習	
授業科目(英文)	保育内容(健康)(Early Childhood Education (Health))						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	中村 リヨ									
履 修 条 件	前提科目	特になし								
	その他	特になし								
授業概要： 乳幼児の基本的な生活習慣の形成、身体機能や運動能力、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、乳幼児が健やかに成長するための保育者の役割について考え、保育を実践する力を身に付ける。										
授業目標： ①乳幼児の身体機能や運動能力の発達について理解する。 ②望ましい生活リズムや基本的な生活習慣を形成するための保育者の役割について理解する。 ③進んで体を動かす子どもを育てるための保育者の役割について理解する。										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態		
1	ガイダンス(授業の進め方、評価方法の説明、健康とは何か)					事前：シラバスの確認 事後：健康とは何かの復習		講義50分、討論20分、発表20分		
2	領域「健康」について(ねらいと内容)					事前：領域「健康」を読んでおく 事後：領域「健康」の復習		講義70分、グループ討議20分		
3	子どもの心と体の健康(幼児期の健康な生活とは)					事前：発育・発達の部分を読んでおく 事後：発育・発達の復習		講義90分		
4	子どもの身体の発達と運動能力 ①子どもの身体の発達					事前：発育・発達の部分を読んでおく 事後：発育・発達の復習		講義50分、グループ討議20分、発表20分		
5	子どもの身体の発達と運動能力 ②運動能力と動きの獲得					事前：運動の能力について読んでおく 事後：運動能力の復習		講義50分、グループ討議20分、発表20分		
6	生活習慣の獲得(0~2歳児)					事前：生活習慣に関する情報に目を通す 事後：生活習慣に関する復習		講義50分、グループ討議20分、発表20分		
7	生活習慣の獲得(3~5歳児)					事前：生活習慣に関する情報に目を通す 事後：生活習慣に関する復習		講義50分、グループ討議20分、発表20分		
8	保育の場における食育指導					事前：食に関する体験・活動を振り返る 事後：食育だよりの作成		講義50分、グループ討議20分、発表20分		
9	遊びの意義と変遷					事前：遊びの定義について調べる 事後：遊びについての復習		講義50分、グループ討議20分、発表20分		
10	運動遊びの実際					事前：運動遊びの体験を振り返る 事後：遊びと留意点の復習		講義50分、演習40分		
11	安全教育とその指導					事前：安全に関する部分を読んでおく 事後：安全に関する留意点の復習		講義50分、グループ討議20分、発表20分		
12	健康をテーマとした教材研究					事前：演習で扱う教材を探しておく 事後：教材づくり		教材研究90分		
13	健康をテーマとした指導案の完成					事前：教材づくり 事後：演習(模擬保育)への準備		指導案作成90分		
14	健康をテーマとした教材発表(模擬保育)					事前：展開について細案を作成する 事後：実施後の振り返り		発表70分、討論20分		
15	保育者の役割と援助(乳幼児の育ちの理解)					事前：保育者の役割について読んでおく 事後：保育者としての自己を意識する		講義60分、発表30分		
教本： 特になし。適宜プリントを配布する。					参考文献： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(いずれも最新版)。					
成績評価の方法、評価基準： 課題への取り組み(50%)、定期試験(50%)等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 講義と演習科目である。主体的かつ積極的に参加する意欲が求められる。グループワークあり。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 (言 葉) (Early Childhood Education (Language))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>子どもの発達と特徴、言葉の本質と機能、言葉の障害について理解し、保育者ついでの話し方・聴き方、絵本などの児童文化財を教材として用いる方法を実践的に学修する。子ども達の言葉の発達に応じて、言葉の持つ意味やイメージ、感情をくみ取る力を支援することは保育者にとって必要な専門性である。言葉でやりとりすることの楽しさや大切さを子どもに伝えるための指導力・実践力を修得できるようにする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>子どもが言葉を獲得する過程を知り、保育者として言葉に対する感性を豊かにすると共に、保育者の役割を理解し、子どもの言葉を育てるための指導力と実践力を身に付ける。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス 言葉とは何か、言葉の獲得の意味について考える。				事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
2	保育内容に示されている領域「言葉」について理解する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
3	乳幼児の言葉の発達 子どもの言葉獲得の過程を理解する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
4	言葉を育てる環境 生活や遊びの中で言葉を豊かにしていくために必要な環境や保育者の援助について考える。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
5	言葉の機能について考える 言葉には様々な機能や役割があることを学ぶ。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、ペアワーク 30分	
6	話し言葉と書き言葉 遊びや生活の中にある文字の有用性や必要性を考え、その援助について理解する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
7	小学校との連携 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領のつながりを理解する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
8	児童文化財の活用 様々な児童文化財に触れ、その活用について実践的に学ぶ。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
9	発達と絵本 絵本の読み聞かせについてこれまでの経験を踏まえて学んでいく。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
10	教材研究 ① 紙芝居について				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
11	教材研究 ② ペーパーサートの作成				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 10分、グループワーク 80分	
12	模擬保育 自作の教材を用いて模擬保育を行い検討する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 10分、グループワーク 80分	
13	指導案の作成 前時の模擬保育を振り返り指導案を作成する、PDCAを考えながら指導上の留意点に気づけるようにする。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
14	言葉を育てる言葉遊び 実際の体験を通して理論と実践の一体的に学ぶ。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 20分、グループワーク 70分	
15	特別に支援を必要とする子どもの援助 保育者の役割と援助について学んだことをまとめていく。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
必要に応じて資料を配付します。					幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業内発表等 (40%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
演習に積極的に参加することで、実践力を身につけてほしい。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 (人 間 関 係) (Early Childhood Education (Human Relations))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 子ども同士の関わり、保育者とのかかわり等、社会性を発達させる上で欠かせない人間関係のあり方全体を理解することを目的とする。子どもたちの人間関係を成立させる基本的ルールとその伝え方を学ばせる。子どもの自主性・自立性の尊重とその促し方、および集団生活との関わり、ごっこ遊びと社会性との関連、社会性涵養の立場から各種行事や園外保育の意義を理解させる。また家庭・社会における人間関係、その中で培われる社会性についても取り上げる。 講義の他に、実践例を踏まえた課題研究発表、グループ討論、ロールプレイングを交えて授業を展開する。									
授 業 目 標 : 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、領域としての「人間関係」の目的、ねらい、内容、内容の取り扱いを理解し、子どもの社会性を育てるための視野を広げる。子どもの遊びと生活を、人間関係の観点で捉える眼を養う。人との関わりを育むために必要とされる知識や技能について理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	教育・保育の基本と領域「人間関係」					事前： 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
2	領域「人間関係」のねらい及び内容					事前：福祉の考えをまとめる 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
3	人間関係の発展の道筋					事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す		グループ討論 60 分、 発表 30 分	
4	0 歳児から 2 歳児の人間関係一その指導法と評価					事前：発展について復習する 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
5	3 歳児から 5 歳児の人間関係一その指導法と評価					事前：2 歳児までの人間関係を復習する 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
6	愛着形成の理論と実際					事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す		講義 60 分、 グループ討論 30 分	
7	自己主張と自己抑制—道徳性の芽生えを育むために					事前：素質について考えておく 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
8	コミュニケーション能力の育成					事前：家庭の育ちを考える 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
9	領域「人間関係」の教材作成と情報機器の活用					事前：PC の操作に慣れておく 事後：教材を作ってみる		演習 90 分	
10	領域「人間関係」の指導案作成					事前：指導案作成の手順を確認する 事後：作成した指導案を見直す		演習 90 分	
11	領域「人間関係」の模擬授業（ロールプレイング）					事前：指導案を読み込む 事後：模擬保育の反省をする		演習 90 分	
12	人とのかかわりが難しい子どもへの支援					事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
13	異年齢児、地域社会との関わり、自然環境の中で育つ人間関係の支援					事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す		演習 60 分、 グループ討論 30 分	
14	領域「人間関係」と他の領域との関連					事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す		演習 60 分、 グループ討論 30 分	
15	幼小連携の課題—人間関係育成の視点から					事前：時事問題の記事を読む 事後：		講義 90 分	
教 本 : 『コンパクト版保育内容シリーズ・人間関係』高橋弥生・福田真奈編著 (一藝社)					参 考 文 献 : 「平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ( 原 本 )」(チャイルド社)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 領域としての「人間関係」のねらい、内容また社会性を育てるための知識・技能について理解ができているか、また子どもの遊びと生活を人間関係の視点から捉えることができるかを複数回のレポート提出及び筆記試験によって総合的に評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 社会性の育ちに対して、新聞記事を読んだり、インターネットで調べる習慣を身につけること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	保育内容(表現)(Early Childhood Education (Expression))						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	古金 悦子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<b>授業概要：</b> 幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている領域「表現」の内容について、乳幼児の発達、保育者の役割や援助、環境などの観点から具体的に理解する。造形、音楽、言葉、身体などでの様々な表現のあり方を学び、保育者としての感性を磨きながら実践力を身につけていく。ピアノと歌唱の技術を向上させるため練習と発表の機会を設ける。										
<b>授業目標：</b> 表現の視点から乳幼児の発達の過程を理解し、保育者としての指導力と実践力を身に付ける。感性を豊かにし、表現に関する教材活用のための理論と実践を一体的に行える力を身につける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイダンス 授業の進め方、概要、受講上の注意など					事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
2	表現の楽しさを体験する（言語表現・音楽表現・造形表現・身体表現）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 実技演習 60分		
3	乳幼児の発達と表現について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
4	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらい・内容について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
5	総合的表現活動としての劇遊びについて					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義・DVD視聴60分、 グループワーク30分		
6	音楽表現の創作 ①（楽器の扱い方、合奏の楽しみ）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
7	音楽表現の創作 ②（合奏譜を作り、練習する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、 グループワーク 80分		
8	音楽表現の創作 ③（グループごとに発表する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 作品発表 70分		
9	乳幼児の表現力を育むための環境と援助について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
10	領域表現と行事について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
11	身体表現の創作 ①（グループで身体表現を創作する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 グループワーク 70分		
12	身体表現の創作 ②（幼児への指導法を工夫する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、 グループワーク 80分		
13	身体表現の創作 ③（発表と振り返り）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 作品発表 70分		
14	指導案の作成について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 40分、 グループワーク 50分		
15	学修のまとめ					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
<b>教本：</b> 必要に応じて資料を配付します。					<b>参考文献：</b> 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業内発表等（40%）、レポート（30%）、小テスト（30%）等で総合評価する。										
<b>学生へのアドバイス：</b> 毎回の授業の中で演習を通して知識と技能を身につけて欲しいと考えています。欠席しないようにして下さい。										
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 総 論 (Overview of Early Childhood Education)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
「幼稚園教育要領」などをふまえた幼稚園や保育所における指導の基本及び教育課程、長期の指導計画、短期の指導計画、評価に至る指導計画の作成について理解することにより、発達や学びの連続性を踏まえた総合的な実践力を身に付ける。									
授 業 目 標 :									
環境を通して学ぶ教育の意義、各領域のねらい、小学校教育との接続について、事例を基に話し合い理解を深める。また、幼児の発達や学びの過程を理解するために、指導計画等の資料収集を行いそれらの比較検討することにより環境構成や教師の支援、評価手法について学ぶ。また、実際に指導計画を作成し模擬保育を行う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	教育環境を通して行う教育の意義について学ぶ。					事前：シラバスの確認 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
2	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理念、ねらいと内容について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
3	保育所・幼稚園・こども園における5領域のねらい、内容について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
4	一人一人の特性に応じた指導の在り方について実践事例を通して学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
5	特別な支援を必要とする子どもへの理解と援助方法及びクラス運営について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
6	質の高い教育・保育の実現するカリキュラム・マネジメント(P・D・C・A)について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
7	幼児の学びの連続性や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、小学校との接続について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
8	教育課程と全体的な計画、保健計画、食育計画の関連性について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
9	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた環境構成の在り方について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
10	視聴覚機器及び情報機器等の活用した教育実践の在り方について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
11	模擬保育をグループでデザインする。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
12	模擬保育の計画(幼児理解・ねらい・内容・環境構成・保育者の支援・評価)をグループで話し合い作成する。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
13	模擬保育の実施と反省評価					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		模擬保育の実施 (90分)	
14	実際の保育の場における実践例と、その解説					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
15	これからの教育・保育の在り方について考える。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・ グループ(30分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 谷田貝公昭監修 大沢裕・高橋弥生編著、『幼児教育方法論』一藝社 (ISBN 未定)					文部科学省『幼稚園教育指導資料集第5集「指導と評価に生かす記録」』チャイルド本社・『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 ( 20 % ) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 ( 20 % ) 、 定 期 試 験 ( 60 % ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
自 分 の 将 来 の 姿 を 考 え 、 保 育 に 夢 と 希 望 を 持 ち な が ら 、 授 業 に の む こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	保育の心理学 I (Psychology of Childcare I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本講座では、保育実践と関係の深い心理学の基礎的理論を学び、子どもが人のかかわりを通して発達していくことを理解していく。また、人生における初期経験が生涯発達に大きな影響を与えることを理解し、子どもの発達援助に保育者がどのようにかかわるべきかを考察していく。									
<b>授業目標：</b> 1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。 2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。 3. 子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。 4. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	保育と心理学－(1) 子どもの発達を理解することの意義					事前：テキストの予習(子どもの発達) 事後：復習(子どもの発達のまとめ)			講義 70分 振り返り 20分
2	保育と心理学－(2) 保育実践の評価と心理学					事前：テキストの予習(評価他) 事後：復習(保育実践の評価のまとめ)			講義 60分 討議 30分
3	保育と心理学－(3) 発達観、子ども観と保育観					事前：テキストの予習(発達観) 事後：復習(子ども観、発達観のまとめ)			講義 60分 討議 30分
4	子どもの発達理解－(1) 子どもの発達と環境					事前：テキストの予習(発達と環境) 事後：復習(環境と発達のまとめ)			講義 60分 討議 30分
5	子どもの発達理解－(2) 感情と自己の発達					事前：テキストの予習(感情と発達) 事後：復習(自己発達と感情とのまとめ)			講義 60分 討議 30分
6	子どもの発達理解－(3) 身体的機能と運動機能の発達					事前：テキストの予習(身体・運動機能) 事後：復習(身体・運動機能の発達のまとめ)			講義 60分 討議 30分
7	子どもの発達理解－(4) 知覚と認知の発達					事前：テキストの予習(知覚と認知) 事後：復習(知覚と認知のまとめ)			講義 60分 討議 30分
8	子どもの発達理解－(5) 言葉の発達と社会性					事前：テキストの予習(言語・社会性) 事後：復習(言語・社会性の発達のまとめ)			講義 60分 討議 30分
9	人のかかわりと子どもの発達－(1) 人のかかわりあいと子どもの発達					事前：テキストの予習(人間関係) 事後：復習(人間関係と発達のまとめ)			講義 60分 討議 30分
10	人のかかわりと子どもの発達－(2) 思いやりの心と道徳性の発達					事前：テキストの予習(道徳性) 事後：復習(道徳性の発達、まとめ)			講義 60分 討議 30分
11	自ら学ぶ心のそだち－(1) 学びのさまざま（学習理論）					事前：テキストの予習(学習理論) 事後：復習(学習理論のまとめ)			講義 60分 討議 30分
12	自ら学ぶ心のそだち－(2) 学びの意欲（動機づけ）					事前：テキストの予習(動機づけ) 事後：復習(動機づけのまとめ)			講義 60分 討議 30分
13	自ら学ぶ心のそだち－(3) 人間関係のなかでの学び					事前：テキストの予習(人間関係) 事後：復習(人間関係の中での学びのまとめ)			講義 60分 討議 30分
14	生涯発達のプロセスと援助－(1) 生涯発達という考え方					事前：テキストの予習(生涯発達) 事後：復習(生涯発達についてまとめる)			講義 60分 討議 30分
15	生涯発達のプロセスと援助－(2) 生涯発達の考え方に基づく援助及び各時期の発達の特徴と援助					事前：テキストの予習(各時期の発達) 事後：復習(生涯を通じてのこの時期の発達のまとめ)			講義 70分 振り返り 20分
<b>教本：</b> 『実践につながる新しい保育の心理学』 ミネルヴァ書房 ￥2,200					<b>参考文献：</b> 岩井邦夫／高橋道子／高橋義信／堀内ゆかり共著「グラフィック乳幼児心理学」 サイエンス社 ￥2,400				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 評価基準：授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらいます。単位によっては発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	保育の心理学Ⅱ (Psychology of Childcare Ⅱ)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	中村 淳子									
履 修 条 件	前提科目	心理学の基礎Ⅰ								
	その他	なし								
<b>授業概要：</b> 心理学の基礎Ⅰで学んだ保育実践と関係の深い基礎的理論を踏まえて、保育者が保育現場で直面する具体的援助について学び、子ども理解をさらに深めていきます。その上で、実際の保育事例に基づく対応方法をグループワークやカンファレンスを通して体験的に学習していきます。また、子どもや保護者支援におけるカウンセリングの方法を学び、理論と保育実践との関連を考え、専門家や他機関と連携して協働できる実力ある保育者を目指す演習としたいと思います。										
<b>授業目標：</b> 1. 子どもの心身の発達と環境について学び、保育を実践する上での留意点について考える。 2. 子どもが生活や遊びを通して学ぶ過程を理解し、それを基礎として生涯にわたる“生きる力”について考える。 3. 保育における子どもの発達援助について学び、実際の支援方法について考える。 4. 現代社会における子どもの発達と、これからの保育の課題や展望について考える。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	1. 子どもの発達と保育実践ー (1) 子ども理解における発達の把握					事前：なし 事後：子どもの発達理解についてまとめる		講義 60分 グループワーク 30分		
2	(2) 個人差や発達課程に応じた保育					事前：個人差について調べる 事後：個人差・発達過程のまとめ		講義 60分 グループワーク 30分		
3	(3) 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 (4) 環境としての保育者と子どもの発達					事前：身体感覚について調べる 事後：テキスト(3)(4)のまとめ		講義 60分 グループワーク 30分		
4	(5) 子どもの相互のかかわりと関係づくり (6) 自己主張と自己統制					事前：子どもの人間関係を調べる 事後：テキスト(5)(6)のまとめ		講義 60分 グループワーク 30分		
5	(7) 子ども集団と保育の環境					事前：子ども集団と環境を調べる 事後：保育環境のまとめ		講義 30分 グループワーク 60分		
6	2. 生活や遊びをととした学びの過程ー (1) 子どもの生活と学び					事前：遊びについて調べる 事後：テキスト(1)のまとめ		講義 20分 グループワーク 70分		
7	(2) 子どもの遊びと学び					事前：遊びを通じた学びを考える 事後：テキスト(2)のまとめ		プレゼンテーション 80分 振り返り 10分		
8	(3) 生涯にわたる生きる力の基礎を培う					事前：生きる力とは何か考える 事後：テキスト(3)のまとめ		講義 70分 振り返り 20分		
9	3. 保育における発達援助ー (1) 基本的な生活習慣の獲得と発達援助					事前：基本的な生活習慣を調べる 事後：テキスト(1)のまとめ		講義 70分 振り返り 20分		
10	(2) 自己の主体性の形成と発達援助 (3) 発達の課題に応じた援助やかかわり					事前：自己主体性について考える 事後：テキスト(2)(3)のまとめ		講義 70分 振り返り 20分		
11	(4) 発達や学びの連続性と就学への支援					事前：就学支援について調べる 事後：テキスト(4)のまとめ		講義 30分 討議 60分		
12	(5) 発達援助における協働					事前：協働とは何か調べる 事後：テキスト(5)のまとめ		講義 30分 討議 60分		
13	4. 現代社会における子どもの発達と保育の課題ー (1) 乳幼児をもつ家族の現状					事前：現代の子ども発達について調べる 事後：家族の現状のまとめ		事例検討 討議 90分		
14	(2) 子どもの発達に影響する要因 (3) 保育所・幼稚園における子育て支援					事前：子育て支援について調べる 事後：テキスト(2)(3)のまとめ		講義 60分 振り返り 30分		
15	(4) 親子を支えるカウンセリング					事前：カウンセリングを調べる 事後：テキスト(4)のまとめ		講義 70分 グループワーク 20分		
<b>教本：</b> 「保育士養成課程－保育の心理学Ⅱ」 小田豊監修、丹羽さかの編著 光生館 ￥1,900					<b>参考文献：</b> 「子どもの発達心理学」 高橋道子／藤崎真知代／仲真紀子／野田幸江著 新曜社 ￥1,900					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。										
<b>学生へのアドバイス：</b> 保育の心理学は、平成22年から新しく保育士養成課程で定められた科目です。保育者として最低限マスターしておきたい実践に即した心理学の科目ですから、授業で学ぶ前にテキストに目を通すなどして理解を深めるよう心掛けてください。また、グループワークやケースカンファレンスなどの演習では、実践力を身に付けるよう積極的に参加してください。										
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。 水曜日の昼休み										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	法 学 (Law)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
<p>授業概要：</p> <p>本講義では、法と社会規範の関係とその差異から出発し、法システムの機能、法の強制力、道徳の共通性と違い、法と正義を概観し、日本の裁判員制度、法の効力など扱います。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>基礎法学、実定法、国際法の基礎を中心に法の基本的な知識を習得し、法学的視点と法学の論理を身につけること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション			事前：事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分		
2	法とは何か(1) 法の存在形式			事前：法源とは何かについて調べる。 事後：法の存在形式をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
3	法とは何か(2) 法律と社会規範			事前：法と社会規範の違いを調べる。 事後：法と社会規範の違いをまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
4	法システムの機能(1) 法の規範的機能			事前：法の規範的機能とは何かを調べる。 事後：法の規範的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
5	法システムの機能(2) 法の社会的機能			事前：法の社会的機能とはどのようなものかを調べる。 事後：法の社会的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
6	法と強制(1) 法と強制／犯罪と刑罰			事前：法と強制、犯罪と刑罰について調べる。 事後：法と強制、犯罪と刑罰をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
7	法と強制(2) 刑罰の性質とその正当化			事前：刑罰の性質とその正当化について調べる。 事後：法的強制の多様化と変貌をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
8	法と道徳(1) 法と道徳／自然法論と法実証主義			事前：法と道徳の関係を考える。 事後：自然法論と法実証主義をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
9	法と道徳(2) 法による道徳の強制			事前：法による道徳の強制は妥当か考える。 事後：パターンリズムと自己決定権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
10	法と正義(1) 法の目的と正義			事前：法の目的と正義を考える。 事後：正義観念と法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
11	法と正義(2) 現代正義論の動向			事前：正義論について調べる。 事後：現代正義論の動向についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
12	日本の裁判員制度			事前：裁判員制度を調べる。 事後：司法への国民参加をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
13	法の効力(1) 法の形式的効力—段階的構一			事前：法の効力に必要なことは何かを考える。 事後：法の形式的効力（段階的構造）をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
14	法の効力(2) 憲法と条約／法の効力の範囲			事前：憲法と条約の関係を調べる。 事後：法の効力の範囲をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
15	効力による法の分類／まとめ			事前：一般法と特別法の区別を調べる。 事後：強行法と任意法の区別をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
教本： とくになし（資料を配布します）。				参考文献： 授業中に適宜指示します。					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	法学 (Law)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 法は、我々が気づかないとしても日常生活を規律している。そこで、本講義では、法の基礎理念を解説し、国内法体系の全体像について理解が得られることを目指す。第一の目的は、講義を通して「法的思考」を習得することである。第二の目的は、「法とは何か」についての本質的理解を深めることである。第三の目的は、具体的な問題について客観的に考察し、合理的な解決を導き出す力を養うことである。これらを通じて、法学学習のきっかけづくりとしたい。									
<b>授業目標：</b> (1) 国内法の体系を説明できる力をつけること。 (2) 社会問題について法学的視点から把握する力をつけること。 (3) 社会問題の解決方法について合理的に説明できる力をつけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	法学総論－法学を学ぶ意味－					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	社会規範と法－法律と道徳と慣習－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	法の種類と段階構造－憲法を頂点とする国内法秩序－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	法の解釈と適用－法に基づく思考の意義－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	法の効力－時間的効力と空間的効力－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	国家とは何か					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	裁判のしくみ－刑事裁判と民事裁判－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	国家の刑罰権－刑罰思想史－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	裁判員制度－国民参加型刑事裁判の特徴－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	死刑制度－存続か廃止か－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	国家賠償－えん罪事件を中心に－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
12	消費者と法－悪質商法、ネットトラブル－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
13	労働者と法－労働法制と労働者の権利－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
14	医療と法－安楽死・尊厳死－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
15	国際社会と法－世界平和の構築－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
<b>教本：</b> 高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅰ－法学・民法・刑法編－』（成文堂）¥2,400＋税					<b>参考文献：</b> 授業中に適宜指示。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に示す。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	法学 (Law)						科目分類	基礎科目	
担当教員	山本 直毅								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>我々国民は、社会において他の個人と共同して生活を営むとき、その社会における一定の秩序を保つ必要がある。しかし、個々人が自己の自由や権利を無制限に主張すれば、各人の自由や権利は衝突し、対立する。法は、それらの衝突の調整、不足部分の補充など、広く社会の秩序を正しく保持するのに必要な基準が必要不可欠である。本授業では、生きた社会の中に法があることを前提として、法体系の基礎を理解しながら、「法とは何か」についての本質的理解を深め、具体的な問題を通じて講義します。</p> <p>授業目標：</p> <p>本授業では、(1)法の役割と性格を理解したうえで、法体系を理解すること、(2)我々個人の視点から平易に身近な社会問題について講義し、法学的視点から問題を発見する力を身に着けること、(3)社会問題に対して、学生が自ら考えて、学生が法的に筋道を立てて問題を解決する能力を涵養したいと思います。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	法と社会生活—法の意義と目的					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	法源と法体系					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	法解釈と法的三段論法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	法の適用と裁判制度					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	国家と憲法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
6	行政と憲法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	裁判員制度					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
8	財産と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
9	契約と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
10	損害賠償					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	家族と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
12	経済と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	犯罪と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
14	仕事と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
15	国際社会と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>奥田進一ほか編著『法学入門』（成文堂、2018）</p>					<p>参考文献：</p> <p>伊藤正巳＝加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣、2005）、 佐藤幸治『法律学入門〔第3版補訂版〕』（有斐閣、2008）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>評価配分は、試験70％程度、平常点（課題、確認テスト、発言などの学習態度）30％程度の合計100％です。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>予習は、教科書の該当する章を精読することと課題の実施等を行います。復習は、授業時の板書内容と教科書の内容とを突合せ理解を深めることが中心となります。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	法の性格と役割 (Introduction to Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	山本 直毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
授業概要： 法は、個人による自己の自由や権利の衝突の調整、不足部分の補充など、広く社会の秩序を正しく保持するのに必要な基準が必要不可欠である。本授業では、我々が他の個人と共同して生活をする生きた社会の中に法があることを確認して、法体系の基礎を理解しながら、「法の役割とは何か」についての本質的理解を深め、具体的な問題を通じて講義します。									
授業目標： 本授業では、(1)法体系を理解すること、(2)我々個人の視点から平易に身近な社会問題について講義し、法学的視点から問題を発見する力を身に付けること、(3)現代社会における法の果たすべき役割を、学生が自ら考えて、学生が法的に筋道を立てて問題を解決する能力を涵養したいと思います。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	法の役割と社会生活					事前：シラバスの予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	社会規範と法体系					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	法と裁判制度					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	憲法総論					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	憲法基本的人権					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
6	憲法統治機構					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	法と犯罪					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
8	法と税金					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
9	法と契約					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
10	法と消費生活					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	法と相続					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
12	法と医療					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	法と損害					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
14	雇用社会と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
15	知的財産権と法					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
教本： 大野正博『法学入門－はじめて学ぶ法学－』（成文堂、2019）					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準： 評価配分は、試験70％程度、平常点（課題、確認テスト、発言などの学習態度）30％程度の合計100％です。									
学生へのアドバイス： 予習は、教科書の該当する章を精読することと課題の実施等を行います。復習は、授業時の板書内容と教科書の内容とを突合せ理解を深めることが中心となります。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト 論 (Portfolio Management)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	金 融 統 計 学 I あ る い は II、お よ び 金 融 ・ 経 済 の 主 要 科 目 を す で に 履 修 し て い る こ と							
	そ の 他	専 門 的 に 特 化 し た 科 目 で あ る こ と を 認 識 し て お く こ と							
授 業 概 要 : ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト の 基 本 原 理 に つ い て 解 説 し た あ と、そ の 理 論 の 根 底 に あ る リ ス ク 評 価 に つ い て 勉 強 す る。次 に、平 均 ・ 分 散 ア プ ロ ー チ を 通 じ て、最 適 ポ ー ト フ ォ リ オ の 決 定 や パ フ ォ ー マ ン ス の 測 定 と 評 価 お よ び CAPM に つ い て 研 究 す る。									
授 業 目 標 : 投 資 収 益 と リ ス ク の 関 係 に つ い て、統 計 学 の 考 え 方 を 適 用 す る プ ロ セ ス を 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト の 基 本 原 理」に つ い て					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : ま と め		講 義	
2	「投 資 収 益 率 と リ ス ク」に つ い て ま と め と 実 習					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : ま と め		講 義、実 習	
3~5	「リ ス ク の 評 価」に つ い て 実 習 と 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : 実 習 と 発 表		講 義、実 習	
6	「分 散 投 資 と ポ ー ト フ ォ リ オ の 決 定」に つ い て ま と め と 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : ま と め と 発 表		講 義、実 習	
7・8	「平 均 ・ 分 散 ア プ ロ ー チ」ま と め と 実 習					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : ま と め		講 義、実 習	
9	「最 適 ポ ー ト フ ォ リ オ の 決 定」の 実 習					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : 実 習		講 義、実 習	
10	「ア セ ッ ト ・ ア ロ ケ ー シ ョ ン」に つ い て ま と め と 実 習					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : ま と め		講 義、実 習	
11・12	「パ フ ォ ー マ ン ス の 測 定 と 評 価」に つ い て ま と め と 実 習					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : ま と め と 発 表		講 義、実 習	
13・14	「CAPM、効 率 的 市 場 仮 説、マ ル チ フ ァ ク タ ー ・ モ デ ル」に つ い て ま と め と 実 習					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : ま と め		講 義、実 習	
15	「ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト の 応 用」に つ い て ま と め					事 前 : テ キ ス ト の 下 読 み 事 後 : ま と め		講 義、実 習	
教 本 : 追 っ て 連 絡 す る。					参 考 文 献 : 追 っ て 連 絡 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト ・ 定 期 試 験 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 投 資 収 益 と リ ス ク の バ ラ ン ス を ど の よ う に 考 え る の か 確 率 論 を ベ ー ス に 勉 強 を 進 め る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 原 理 I (Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。									
授 業 目 標 :									
複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記の基礎					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	資産・負債・純資産（資本）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	収益費用と損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	取引と8要素					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	6桁精算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算手続					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	現金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	当座預金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	演習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。					な し				
渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
平常点 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積み重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿記原理 I (Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑原 常明								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書にまとめる知識・技術である。簿記原理 I は、会計関連科目の基礎・前提となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
<b>授業目標：</b> 日商簿記 3 級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記と財務諸表 簿記の一巡の処理について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目の分類と仕訳のルールについて解説する。					事前：問題集 6-8 頁の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	基本的な仕訳と仕訳帳・元帳 基本的な仕訳を理解し、仕訳帳の作成について解説する。					事前：問題集14頁の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	現金・預金と現金出納帳 現金による取引の仕訳と現金出納帳の作成について解説する。					事前：問題集29-30頁の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	現金過不足の処理 第 4 回の復習を含め、現金過不足の処理について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	当座預金・当座借越と当座預金出納帳 小切手を含む当座預金の処理について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	普通預金の処理 第 6 回の復習を含め、普通預金の処理について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	小口現金と小口現金出納帳 小口現金出納帳を中心に解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	商品売買（分記法）の処理 第 8 回までの復習を含め、商品売買（分記法）を解説する。					事前：問題集38-39頁の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	商品売買（3分法）と仕入帳・売上帳 3分法による仕訳と仕入帳・売上帳の作成について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
11	商品売買（3分法）と商品有高帳と売上原価計算 商品有高帳の作成と売上原価の計算について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
12	仕訳と勘定記入 第11回までの復習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
13	合計残高試算表と決算振替仕訳 第12回までの総括を含め、試算表と決算振替仕訳を解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
14	問題演習 1（第 8 回までの復習） 仕訳の徹底のため、第 8 回までの問題演習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習 2（第 9 回から第13回までの復習） 第14回につづき、第13回までの復習として問題演習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
<b>教本：</b> 渡辺裕亘 他『検定簿記講義 3 級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社。					<b>参考文献：</b>				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 原 理 I (Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書を作成する知識・技術である。簿記原理 I は、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
授 業 目 標 : 日商簿記 3 級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記と財務諸表 1 (簿記の基礎知識) 簿記の基礎となる知識について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	簿記と財務諸表 2 (財務諸表の特徴) 簿記の基礎と財務諸表について解説する。					事前：配布資料の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目と財務諸表の構成要素について解説する。					事前：配布資料の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	基本的な仕訳と仕訳帳 基本的な取引・仕訳と仕訳帳について解説する。					事前：テキスト1-36頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	仕訳と勘定への転記 (総勘定元帳) 総勘定元帳への転記について解説する。					事前：テキスト37-43頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	決算 1 (試算表の作成) 試算表の作成について解説する。					事前：テキスト44-63頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	決算 2 (財務諸表の作成) 財務諸表の作成について解説する。					事前：テキスト44-63頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	問題演習 1 (決算まで) 第 7 回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
9	現金 (現金出納帳・現金過不足) 現金に係る処理について解説する。					事前：テキスト64-71頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	当座預金 (当座預金出納帳・当座借越) 当座預金に係る処理について解説する。					事前：テキスト71-75頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
11	小口現金とその他の預金 (小口現金出納帳) 小口現金出納帳を中心に解説する。					事前：テキスト75-83頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
12	問題演習 2 (現金預金) 第11回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
13	商品売買取引 1 (分記法と 3 分法) 分記法と 3 分法の仕訳について解説する。					事前：テキスト84-94頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
14	商品売買取引 2 (補助簿・売上原価計算) 商品に係る補助簿と売上原価計算について解説する。					事前：テキスト94-104頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
15	問題演習 3 (商品売買取引) 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 : 渡辺裕亘 他 『検定簿記講義 3 級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他 『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社。					参 考 文 献 : 適宜、指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必ず電卓を用意すること (スマホなどの電卓は認めない)。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 原 理 Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 Ⅰ を 必 ず 履 修 す る こ と。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
勘 定 科 目 の 内 容 理 解 と 記 帳 実 践 を 指 導 し、決 算 処 理、試 算 表 の 作 成、8 桁 精 算 表 作 成、損 益 計 算 書 と 貸 借 対 照 表 の 作 成 ま で を 講 義 し、実 際 の 記 帳 を 指 導 す る。そ れ ら の 過 程 を 理 解 す る こ と に よ っ て、会 計 の 思 考 法 も あ わ せ て 指 導 し て い く。こ の 講 義 は、実 践 と 結 び つ い て い る の で プ リ ン ト を 利 用 し 仕 訳 ・ 記 帳 の 事 例 を くり か え し、理 解 の 促 進 を 図 る。欠 席 し な い こ と と 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と が 理 解 す る た め の 最 短 距 離 で あ る。									
授 業 目 標 :									
複 式 簿 記 の 基 礎 か ら 応 用 ま で の 商 業 簿 記 を 講 義 す る。取 引 の 仕 訳 か ら、転 記、8 桁 精 算 表 作 成、損 益 計 算 書 と 貸 借 対 照 表 の 作 成 ま で を 理 解 す る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	現 金 ・ 預 金 の 処 理					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
2	商 品 売 買 Ⅰ					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
3	商 品 売 買 Ⅱ					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
4	売 掛 金 ・ 買 掛 金 と 貸 倒 れ の 処 理					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
5	有 価 証 券 の 処 理					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
6	手 形 取 引 の 処 理					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
7	そ の 他 の 債 券 ・ 債 務 の 処 理					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
8	固 定 資 産 と 減 価 償 却					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
9	純 資 産 ・ 税 金 の 処 理					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
10	試 算 表 の 作 成					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
11	決 算 の 手 続 き Ⅰ					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
12	決 算 の 手 続 き Ⅱ					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
13	決 算 の 手 続 き Ⅲ					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
14	決 算 の 手 続 き Ⅳ					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
15	ま と め					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
渡 辺 裕 互 他 『検 定 簿 記 講 義 3 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。 渡 辺 裕 互 他 『検 定 簿 記 ワ ー ク ブ ッ ク 3 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、定 期 試 験 (80) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
休 み と 遅 刻 が 最 大 の 敵。毎 週 の 努 力 の 積 重 ね が、理 解 で き る 最 短 の 道 と 思 う。休 ま な い こ と と 予 習 ・ 復 習 を 希 望 す る。配 付 プ リ ン ト を 確 実 に こ な し、理 解 す る こ と。簿 記 の 検 定 を 受 験 し て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿記原理Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑原 常明								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿記原理Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 簿記原理Ⅱでは、簿記原理Ⅰから継続して簿記の基本的な技術・知識について学習していく。また、簿記原理Ⅱは、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。そのため、科目の特徴上、簿記原理Ⅰを履修していることが望ましい。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
授業目標： 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記原理Ⅰの復習 現金預金、商品売買および試算表作成までの一巡を復習する。					事前：簿記原理Ⅰの復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	売掛金・買掛金・クレジット売掛金 元帳への記入とクレジット売掛金の処理について解説する。					事前：問題集46頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	受取手形と支払手形 約束手形による支払いと受取りの処理について解説する。					事前：問題集64-65頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	掛・手形以外の債権・債務 貸付金や借入金等の債権・債務の処理について解説する。					事前：問題集56-58頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	貸倒引当金の処理 貸倒引当金の設定、貸倒れの処理について解説する。					事前：問題集78-79頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	有形固定資産と減価償却 有形固定資産の取得・売却、減価償却について解説する。					事前：問題集70-71頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	純資産（株主資本）と決算振替仕訳 会社の設立・増資、純利益の振替え、配当について解説する。					事前：問題集81頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	収益・費用と経過勘定項目 収益と費用の期間配分・経過勘定項目について解説する。					事前：問題集84頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	税金の処理 法人税等や消費税の処理について解説する。					事前：問題集90-91頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	伝票と仕訳 3伝票制（入金伝票、出金伝票、振替伝票）について解説する。					事前：問題集97-98頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
11	決算1（試算表の作成） 精算表作成の前提として試算表作成を復習・解説する。					事前：すべての問題の復習 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
12	決算2（試算表と決算整理・精算表） 試算表作成から決算整理を中心に精算表作成まで試みる。					事前：問題104-105頁を予習 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
13	決算3（精算表・財務諸表の作成） 前回までの流れを理解して精算表を作成する。					事前：前回問題演習の復習 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
14	問題演習1（第8回までの復習） 仕訳の徹底のため、第8回までの問題演習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習2（第9回から第13回までの復習） 第14回につづき、第13回までの復習として問題演習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
教本： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿記原理Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿記原理Ⅰ							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 簿記原理Ⅱでは、簿記原理Ⅰから継続して簿記の基本的な技術・知識について学習していく。また、簿記原理Ⅱは、会計関連科目の基礎・前提となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。また、簿記原理Ⅰと連続する科目であるため、簿記原理Ⅰを履修している必要がある。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
<b>授業目標：</b> 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	売上債権と仕入債務1（掛けと手付金） 掛と手付金の処理について解説する。					事前：テキスト105～120頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	売上債権と仕入債務2（手形） 手形の処理について解説する。					事前：テキスト138～148頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	貸倒引当金 貸倒引当金の処理について解説する。					事前：テキスト165～170頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	掛・手形以外の債権・債務 掛と手形以外の債権・債務について解説する。					事前：テキスト121～137頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	問題演習1（債権債務） 第4回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
6	有形固定資産と減価償却 有形固定資産と減価償却について解説する。					事前：テキスト149～164頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	純資産と決算振替仕訳 純資産と決算振替仕訳について解説する。					事前：テキスト171～179頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	収益・費用と経過勘定項目 経過勘定項目を中心に解説する。					事前：テキスト180～190頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	税金（法人税等、消費税） 法人税等や消費税について解説する。					事前：テキスト191～199頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	伝票と仕訳 伝票の起票を中心に解説する。					事前：テキスト200～217頁 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
11	問題演習2（各論） 第10回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
12	決算1（試算表の作成） 決算のうち、試算表の作成について解説する。					事前：テキスト218～227頁 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
13	決算2（精算表の作成） 決算のうち、精算表の作成について解説する。					事前：テキスト228～231頁 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
14	決算3（財務諸表の作成） 決算のうち、財務諸表の作成について解説する。					事前：テキスト231～239頁 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習3（決算） 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
<b>教本：</b> 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					<b>参考文献：</b> 適宜、指示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記論 I (Bookkeeping I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記の基礎					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	資産・負債・純資産（資本）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	収益費用と損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	取引と8要素					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	6桁精算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算手続					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	現金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	当座預金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	演習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。</p>					<p>参考文献：</p> <p>なし</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 論 I (Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑 原 常 明								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書にまとめる知識・技術である。簿記論 I は、会計関連科目の基礎・前提となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
授 業 目 標 :									
日商簿記 3 級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記と財務諸表 簿記の一巡の処理について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目の分類と仕訳のルールについて解説する。					事前：問題集 6-8 頁の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	基本的な仕訳と仕訳帳・元帳 基本的な仕訳を理解し、仕訳帳の作成について解説する。					事前：問題集14頁の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	現金・預金と現金出納帳 現金による取引の仕訳と現金出納帳の作成について解説する。					事前：問題集29-30頁の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	現金過不足の処理 第 4 回の復習を含め、現金過不足の処理について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	当座預金・当座借越と当座預金出納帳 小切手を含む当座預金の処理について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	普通預金の処理 第 6 回の復習を含め、普通預金の処理について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	小口現金と小口現金出納帳 小口現金出納帳を中心に解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	商品売買(分記法)の処理 第 8 回までの復習を含め、商品売買(分記法)を解説する。					事前：問題集38-39頁の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	商品売買(3分法)と仕入帳・売上帳 3分法による仕訳と仕入帳・売上帳の作成について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
11	商品売買(3分法)と商品有高帳と売上原価計算 商品有高帳の作成と売上原価の計算について解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
12	仕訳と勘定記入 第11回までの復習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
13	合計残高試算表と決算振替仕訳 第12回までの総括を含め、試算表と決算振替仕訳を解説する。					事前：前回問題演習の復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
14	問題演習 1 (第 8 回までの復習) 仕訳の徹底のため、第 8 回までの問題演習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習 2 (第 9 回から第13回までの復習) 第14回につづき、第13回までの復習として問題演習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
渡辺裕亘 他『検定簿記講義 3 級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
必ず電卓を用意すること (スマホなどの電卓は認めない)。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 論 I (Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書を作成する知識・技術である。簿記論Iは、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
授 業 目 標 :									
日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記と財務諸表1 (簿記の基礎知識) 簿記の基礎となる知識について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	簿記と財務諸表2 (財務諸表の特徴) 簿記の基礎と財務諸表について解説する。					事前：配布資料の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目と財務諸表の構成要素について解説する。					事前：配布資料の予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	基本的な仕訳と仕訳帳 基本的な取引・仕訳と仕訳帳について解説する。					事前：テキスト1-36頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	仕訳と勘定への転記 (総勘定元帳) 総勘定元帳への転記について解説する。					事前：テキスト37-43頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	決算1 (試算表の作成) 試算表の作成について解説する。					事前：テキスト44-63頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	決算2 (財務諸表の作成) 財務諸表の作成について解説する。					事前：テキスト44-63頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	問題演習1 (決算まで) 第7回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
9	現金 (現金出納帳・現金過不足) 現金に係る処理について解説する。					事前：テキスト64-71頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	当座預金 (当座預金出納帳・当座借越) 当座預金に係る処理について解説する。					事前：テキスト71-75頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
11	小口現金とその他の預金 (小口現金出納帳) 小口現金出納帳を中心に解説する。					事前：テキスト75-83頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
12	問題演習2 (現金預金) 第11回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
13	商品売買取引1 (分記法と3分法) 分記法と3分法の仕訳について解説する。					事前：テキスト84-94頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
14	商品売買取引2 (補助簿・売上原価計算) 商品に係る補助簿と売上原価計算について解説する。					事前：テキスト94-104頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
15	問題演習3 (商品売買取引) 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。					適宜、指示する。				
渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
必ず電卓を用意すること (スマホなどの電卓は認めない)。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記論Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰを必ず履修すること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。</p> <p>授業目標：</p> <p>複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現金・預金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	商品売買Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	商品売買Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	売掛金・買掛金と貸倒れの処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	有価証券の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	手形取引の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	その他の債券・債務の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	固定資産と減価償却					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	純資産・税金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算の手続きⅠ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	決算の手続きⅡ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	決算の手続きⅢ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	決算の手続きⅣ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本：					参考文献：				
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、定期試験（80）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									



開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿記論Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑原 常明								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿記論Ⅰ							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰから継続して簿記の基本的な技術・知識について学習していく。また、簿記論Ⅱは、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。そのため、科目の特徴上、簿記論Ⅰを履修していることが望ましい。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
<b>授業目標：</b> 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記論Ⅰの復習 現金預金、商品売買および試算表作成までの一巡を復習する。					事前：簿記原理Ⅰの復習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	売掛金・買掛金・クレジット売掛金 元帳への記入とクレジット売掛金の処理について解説する。					事前：問題集46頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	受取手形と支払手形 約束手形による支払いと受取りの処理について解説する。					事前：問題集64-65頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	掛・手形以外の債権・債務 貸付金や借入金等の債権・債務の処理について解説する。					事前：問題集56-58頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	貸倒引当金の処理 貸倒引当金の設定、貸倒れの処理について解説する。					事前：問題集78-79頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	有形固定資産と減価償却 有形固定資産の取得・売却、減価償却について解説する。					事前：問題集70-71頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	純資産（株主資本）と決算振替仕訳 会社の設立・増資、純利益の振替え、配当について解説する。					事前：問題集81頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	収益・費用と経過勘定項目 収益と費用の期間配分・経過勘定項目について解説する。					事前：問題集84頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	税金の処理 法人税等や消費税の処理について解説する。					事前：問題集90-91頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	伝票と仕訳 3伝票制（入金伝票、出金伝票、振替伝票）について解説する。					事前：問題集97-98頁を予習 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
11	決算1（試算表の作成） 精算表作成の前提として試算表作成を復習・解説する。					事前：すべての問題の復習 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
12	決算2（試算表と決算整理・精算表） 試算表作成から決算整理を中心に精算表作成まで試みる。					事前：問題104-105頁を予習 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
13	決算3（精算表・財務諸表の作成） 前回までの流れを理解して精算表を作成する。					事前：前回問題演習の復習 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
14	問題演習1（第8回までの復習） 仕訳の徹底のため、第8回までの問題演習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習2（第9回から第13回までの復習） 第14回につづき、第13回までの復習として問題演習を行う。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
<b>教本：</b> 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					<b>参考文献：</b>				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記論Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰから継続して簿記の基本的な技術・知識について学習していく。また、簿記論Ⅱは、会計関連科目の基礎・前提となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。また、簿記論Ⅰと連続する科目であるため、簿記論Ⅰを履修している必要がある。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
<b>授業目標：</b> 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	売上債権と仕入債務1（掛けと手付金） 掛と手付金の処理について解説する。					事前：テキスト105～120頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	売上債権と仕入債務2（手形） 手形の処理について解説する。					事前：テキスト138～148頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	貸倒引当金 貸倒引当金の処理について解説する。					事前：テキスト165～170頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	掛・手形以外の債権・債務 掛と手形以外の債権・債務について解説する。					事前：テキスト121～137頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	問題演習1（債権債務） 第4回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
6	有形固定資産と減価償却 有形固定資産と減価償却について解説する。					事前：テキスト149～164頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	純資産と決算振替仕訳 純資産と決算振替仕訳について解説する。					事前：テキスト171～179頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	収益・費用と経過勘定項目 経過勘定項目を中心に解説する。					事前：テキスト180～190頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	税金（法人税等、消費税） 法人税等や消費税について解説する。					事前：テキスト191～199頁 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	伝票と仕訳 伝票の起票を中心に解説する。					事前：テキスト200～217頁 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
11	問題演習2（各論） 第10回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
12	決算1（試算表の作成） 決算のうち、試算表の作成について解説する。					事前：テキスト218～227頁 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
13	決算2（精算表の作成） 決算のうち、精算表の作成について解説する。					事前：テキスト228～231頁 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
14	決算3（財務諸表の作成） 決算のうち、財務諸表の作成について解説する。					事前：テキスト231～239頁 事後：復習ノートの作成		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習3（決算） 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
<b>教本：</b> 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					<b>参考文献：</b> 適宜、指示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホスピタリティ論 (Hospitality Management)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ホスピタリティとは何かを理解することにより、理論的な手法により自身を見直し対人関係をよりよくするための実践的な講義である。									
授業目標： ①ホスピタリティのあり方を理解する ②自身を今一度理解する ③人間関係のあり方を理解する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	(1)ホスピタリティの体系： ①ホスピタリティ、サービス、おもてなしなど関連用語の関係性について理解する。 ②ホスピタリティの語源等からホスピタリティの意味を学修する。					事前：ホスピタリティに関する資料収集 事後：自身でのホスピタリティの体系化		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
3～6	(2)自分を知る： ①自身のタイプについての自己診断を行う。 ②自分の資質を理解することについて学修する。 ③自身の社会における役割(常識・マナー)について学修する。 ④慈悲や喜怒哀楽について学修する。 ⑤自己開示・自己発見など自分を理解する方法について学修する。 ⑥自分の魅力を引き出す方法について学修する。 ⑦自分のホスピタリティマインドを鍛える方法について学修する。					事前：自身の性格と向き合う 事後：自身の性格の長所・短所について理解し自身のホスピタリティマインドのあり方について熟慮する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
7～10	(3)相手を理解する： ①相手の特性・個性について学修する。 ②相手を受け止める自分について学修する。 ③相手の多様性への対応について学修する（ユニバーサルデザイン）。					事前：友人・知人に対する理解度について考えてみる。 事後：改めて友人・知人の良い点・優れている点について理解する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
11～14	(4)自分と相手の関係を知る： ①反射の原則、教官の原則について学修する。 ②バーバル・ノンバーバルにおける伝達の方法について学修する。 ③コミュニケーションを豊かにする方法や手段について学修する。					事前：友人・知人との関係について改めて考えてみる。 事後：友人・知人とのさらなるより良い関係の構築について考えてみる。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
15	(5)ホスピタリティ・マネジメントに向けて： ①ホスピタリティの本質と構造についての復習 ②自身のホスピタリティ・マインド起動の確認					事前：授業全体の復習 事後：サービス産業の特徴についての体系的まとめ		講義 70分 小テスト 20分	
教本： なし					参考文献： 講義において随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点50%、定期試験50%等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、単に学修するだけでなく、自身を改めて見直しより良い対人関係を生み出すための実践でもある。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホスピタリティ論 A (Hospitality Management A)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ホスピタリティとは何かを理解することにより、理論的な手法により自身を見直し対人関係をよりよくするための実践的な講義である。									
授 業 目 標 : ①ホスピタリティのあり方を理解する ②自身を今一度理解する ②人間関係のあり方を理解する									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	(1)ホスピタリティの体系： ①ホスピタリティ、サービス、おもてなしなど関連用語の関係性について理解する。 ②ホスピタリティの語源等からホスピタリティの意味を学修する。					事前：ホスピタリティに関する資料収集 事後：自身でのホスピタリティの体系化		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
3～6	(2)自分を知る： ①自身のタイプについての自己診断を行う。 ②自分の資質を理解することについて学修する。 ③自身の社会における役割(常識・マナー)について学修する。 ④慈悲や喜怒哀楽について学修する。 ⑤自己開示・自己発見など自分を理解する方法について学修する。 ⑥自分の魅力を引き出す方法について学修する。 ⑦自分のホスピタリティ・マインドを鍛える方法について学修する。					事前：自身の性格と向き合う 事後：自身の性格の長所・短所について理解し自身のホスピタリティマインドのあり方について熟慮する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
7～10	(3)相手を理解する： ①相手の特性・個性について学修する。 ②相手を受け止める自分について学修する。 ③相手の多様性への対応について学修する (ユニバーサルデザイン)。					事前：友人・知人に対する理解度について考えてみる。 事後：改めて友人・知人の良い点・優れている点について理解する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
11～14	(4)自分と相手の関係を知る： ①反射の原則、教官の原則について学修する。 ②バーバル・ノンバーバルにおける伝達の方法について学修する。 ③コミュニケーションを豊かにする方法や手段について学修する。					事前：友人・知人との関係について改めて考えてみる。 事後：友人・知人とのさらなるより良き関係の構築について考えてみる。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
15	(5)ホスピタリティ・マネジメントに向けて： ①ホスピタリティの本質と構造についての復習 ②自身のホスピタリティ・マインド起動の確認					事前：授業全体の復習 事後：サービス産業の特徴についての体系的まとめ		講義 70分 小テスト 20分	
教 本 : なし					参 考 文 献 : 講義において随時提示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 ( %)、小テスト・レポート等 ( %)、定期試験 ( %) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 本授業は、単に学修するだけでなく、自身を改めて見直しより良き対人関係を生み出すための実践でもある。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホスピタリティ論B (Hospitality Management B)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	ホスピタリティ論A							
	そ の 他	な し							
<b>授業概要：</b> ホスピタリティの基礎理解を踏まえ、社会・組織・企業等における横断的なホスピタリティ向上のための視点・施策を中心としたホスピタリティの実践論について学修する。									
<b>授業目標：</b> ①サービス産業における経営特性を理解する ②各種企業・組織形態別ホスピタリティの実践を理解する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2・3	ホスピタリティ産業(サービス産業)とホスピタリティの基本的考え方： ①サービス産業におけるサービスとホスピタリティの違い ②ホスピタリティ産業の特性					事前：ホスピタリティとはについて復習しておく。 事後：産業におけるホスピタリティとサービスの違いについて体系的にまとめる。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
4・5・6	各種産業におけるクレドの内容と意味： ①リッツカールトンにおけるクレドと運営理念 ②他産業におけるクレドの内容と視点					事前：リッツカールトンについて調査する。 事後：クレドの意義についてまとめる。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
7・8・9	顧客満足(CS)と従業員満(E S)： ①顧客満足度の意義及び満足度向上策 ②従業員満足度の意義と効果 ③外国人来訪者における満足度 ④満足度調査の手法と実施					事前：満足度とは何かを調査する。 事後：CSとESとの関係について体系的にまとめる。各種企業の事例を収集する。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
10・11	組織形態とホスピタリティ： ①組織形態の特徴 ②ネットワーク組織の特徴 ③ホスピタリティとネットワークキング					事前：ネットワークの意味を調査する。 事後：ネットワーク組織の利点についてまとめる。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
12・13	顧客対応とホスピタリティ： ①マニュアルとホスピタリティ ②アイデアとホスピタリティ ③ガイド(ボランティアガイド)の実践					事前：マニュアルとは何かを調査する。 事後：マニュアルとアイデアの違いについてまとめる。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
14・15	企業に必要なホスピタリティ・マインドの体得： ①ホスピタリティ体得の段階 ②ホスピタリティ・マインド育成の心構え					事前：ホスピタリティ論の全復習を行う。 事後：自身の変化の確認を行う。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
教 本： なし	参 考 文 献： 講義において随時提示する。								
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 平常点50%、定期試験50%等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 原則ホスピタリティAを取得してから受講するのが望ましい。各企業種毎については他授業にて学修できるのでここでは、各企業等の共通するホスピタリティ関連について横断的に学習する。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホテル経営論Ⅰ (Hotel Management Theory Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 観光産業の概況（観光産業の動向と宿泊産業）、ホテル産業の概要（ホテルの定義・ホテル産業の分類・ホテルの組織）、ホテル経営者として必要な基本知識（国際的な習慣・ホスピタリティ・関連知識・ホテル英語の基本）、宿泊部門（宿泊商品の特性・組織と業務役割）、宿泊部門の実務（宿泊約款と利用規則・施設設備・宿泊商品・主な担当者の業務）について学習する。									
<b>授業目標：</b> 1. ホテルについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようになる。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法及び基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	世界の観光動向、世界の宿泊産業（欧州・米国・アジア）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P 2～7） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
3	日本の観光動向、日本の宿泊産業について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P 8～15） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
4	ホテル産業の概要（ホテルの定義・ホテル産業の分類）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P16～20） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
5	ホテル産業の概要（ホテルの組織）、ホテル経営の推進力について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P21～22） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
6	ホテル経営者として必要な基本知識（国際的な慣習・ホスピタリティ）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P23～28） 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	ホテル経営者として必要な基本知識（関連団体・関連法規他）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P28～31） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
8	ホテル英語の基本、ホテルの経営形態について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P32～53） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
9	宿泊商品の特性（制約要件・市場要件・収益性）、組織と業務役割について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P58～61） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
10	宿泊部門の基本知識（宿泊約款と利用規則）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P62～65） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
11	宿泊部門の基本知識（施設設備・宿泊商品）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P66～73） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
12	宿泊部門の主な担当者の業務（ユニフォーム・サービス係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P73～76） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
13	宿泊部門の主な担当者の業務（フロント・オフィス係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P76～79） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
14	宿泊部門の主な担当者の業務（ルームリザーベーション係・アシスタントマネージャー係・コンシェルジュ係・テレフォンオペレーター係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P79～82） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
15	宿泊部門の主な担当者の業務（ハウスキーピング係）半期授業の総括。授業のポイントについて説明し理解度を確認する。					事前：授業の予習（教科書 P82～84） 事後：ポイントを整理する		講義 60分、質疑応答 30分	
<b>教本：</b> 「ホテルビジネス」（日本ホテル教育センター ￥5,000）					<b>参考文献：</b> 必要な資料をその都度配布				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホ テ ル 経 営 論 Ⅱ (Hotel Management Theory Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 信 次								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ホ テ ル 経 営 論 Ⅰ に 引 き 続 き、ホ テ ル 経 営 の 観 点 か ら 料 飲 部 門、宴 会 部 門、調 理 部 門、マ ー ケ ッ テ ィ ン グ 部 門、総 務 ・ 人 事 部 門、施 設 管 理 部 門、仕 入 れ ・ 購 買 部 門、経 理 ・ 会 計 部 門 に つ い て 学 習 す る。									
授 業 目 標 : 1. ホ テ ル に つ い て の 基 礎 ・ 専 門 知 識 を 学 び、そ の 経 営 に 関 心 を 持 つ よ う に す る。 2. 「ホ ス ピ タ リ テ ィ ・ マ イ ン ド」 を 身 に つ け る。 3. 「社 会 人 と し て の 基 本 的 な マ ナ ー ・ 知 識」 を 身 に つ け る。(授 業 開 始 時、終 了 時 に 挨拶 の 練 習 を 実 施)									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法及基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	料飲部門の概要 料飲商品の特性(制約要件、立地・施設要件、嗜好・経費面)、組織と業務役割(組織、役職者・担当者呼称、レストラン課・飲料課・料飲事務の業務)、基本知識(業種・業態、施設・設備・備品、食材・飲材)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P88～105) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
3	基本知識(メニュー、サービス方法、食品衛生、苦情処理と緊急対応)、主な担当者の業務(マネージャー、グリーター・グリーートルス、ウェイター・ウェイトレス、飲料担当者)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P105～121) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
4	宴会部門の概要 宴会商品の特性、(制約要件、施設・設備、経営面)、組織と業務役割(組織、役職者・担当者呼称、宴会予約課、宴会サービス課、その他)、基本知識(宴会の種類、施設・設備・備品、サービス方法)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P126～138) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
5	基本知識(冠婚葬祭、プロトコル、宴会約款)、主な担当者の業務(ブック・コントローラー、ブライダル・サロン、宴会レセプション係、宴会サービス係、宴会スチュワード係、宴会クローク係、パンケット・ホステス、宴会バーテンダー、介添え係)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P139～151) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
6	調理部門の概要 調理部門の特性(制約要件、メニュー開発、経費面)、組織と業務役割(組織、役職者・担当者呼称、メインキッチン課、宴会調理課、レストラン調理課、製菓・製パン課)、基本知識(調理の種類と特徴、施設・設備・備品、調理の方法)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P156～169) 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	基本知識(西洋料理、顧客志向、食品衛生)、主な担当者の業務(ブッチャー係、ソース係、ガルドマンジェ係、ペストリー係、ベーカリー係、ストープ前、パントリー係)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P169～182) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
8	マーケティング部門の概要 組織と業務役割(組織、営業企画課、セールス課)、売り上げ予算の作成業務(客室売り上げ、宴会売り上げ)、基本知識(マーケティング戦略、商品化計画)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P186～205) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
9	基本知識(顧客管理、各種マネジメント)、主な担当者の業務(宴会セールス係、宿泊セールス係、婚礼セールス係、広報・宣伝係、企画係、顧客管理係)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P206～214) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
10	総務・人事部門の概要 組織と業務役割(組織、総務業務、人事業務)、基本知識(総務課)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P218～224) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
11	基本知識(人事課)、基本知識(総務部門、人事部門)について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P224～235) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	
12	施設管理部門の概要 組織と業務役割(組織、使命と責務、業務)基本知識(主要設備と付帯設備、省エネとエネルギー管理、ISO活動への取り組みと運用、IT設備、廃棄物処理管理、具体的省エネ)、関係法令(ビル衛生管理法、省エネ法、電気事業法、建築基準法、消防法、大気汚染防止法、その他)、関係資格について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 (教科書P240～256) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分	

13	仕入れ・購買部門の概要 組織と業務役割 (組織、業務)、基本知識 (食品衛生、仕入れ)、主な担当者の業務 (仕入れ、在庫管理、情報収集と管理、商品管理) について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。	事前：授業の予習 (教科書 P260~279) 事後：次回授業の予習	講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分
14	経理・会計部門の概要 組織と業務役割 (組織、経理課、収納課、クレジット課)、基本知識 (知っておきたい常識、業務の特徴、収益会計と費用会計、予算管理、経営分析、税) について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。	事前：授業の予習 (教科書 P284~300) 事後：次回授業の予習	講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分
15	主な担当者の業務 (宿泊部門、料飲部門、宴会部門、その他部門の会計実務) 半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：授業の予習 (教科書 P88~300) 事後：ポイントを整理する	講義 60分、質疑応答 30分
教本： 「ホテルビジネス」(日本教育センター) ¥5,000		参考文献： 必要な資料をその都度配布	
成績評価の方法、評価基準： 平常点 (15%)、小テスト (20%)、定期試験のレポート (65%)、等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 指定の教科書で事前・事後学習してください。理解できない点は授業で質問してください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			



開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホテルサービス実務 (Practice for Hotel Service)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ホテルの基本的性格、ホテル業の分類、ホテルの経営、組織、ホスピタリティとサービス、顧客満足、従業員満足、品質管理、ホテルの評価、ホテルスタッフのサービストレーニングと評価、ホテルスタッフの基本マナー、接客サービス（宿泊部門、料飲部門、食堂部門、宴会部門、調理部門）、ホテルの付帯サービスについて学習する。									
授業目標： 1. ホテルサービス全般を学び、ホテル運営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。(授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施)									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法と基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。 ホテルの基本的性格。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	ホテル業の分類 立地による分類（都市、郊外、リゾート）、形態による分類（経営形態、資本形態）、ホテルの経営（基本理念、営業方針、サービスマネジメント）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P1～15） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
3	ホテルの組織（日本のホテル、外国経営のホテル、日本と外国経営の違い、ホテルの構造）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P15～31） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
4	ホスピタリティとサービス（ホスピタリティの原点、サービスの特性、サービスの分類、良いサービス）、顧客満足（特性とサービス）、従業員満足（従業員満足とサービス、自己啓発、品質管理（品質管理と向上のステップ）、ホテルの評価（お客様の声、評価内容）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P33～48） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
5	ホテルスタッフのサービストレーニング サービスマニュアルの活用（必要性、作成、OJTでの活用）、日本のサービストレーニングについて質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P49～63） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
6	外国経営ホテルのトレーニング、コンピューターシステムの活用について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P63～77） 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	仕事の評価（日本のホテルの評価制度、外国のホテルの評価制度）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P77～94） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
8	ホテルスタッフの基本マナー（身だしなみ、ユニフォームの自己管理、言葉づかい、表情と動作、電話の対応、職場の規律）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P85～94） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
9	接客サービス 宿泊部門（特色、組織と業務の流れ、フロントオフィスの仕事：宿泊予約、レセプション、インフォメーション、キャッシャー、アシスタントマネージャー・ナイトマネージャー）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P95～111） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
10	フロントサービスの仕事（ドアマン・ドアガール、ベルマン・ベルガール、クローク、ゲストリレーションズ・コンシェルジュ）、ハウスキーピングの仕事（客室管理事務所、ハウスキーパー、チェッカー）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P111～128） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
11	料飲部門（特色と組織）、食堂部門（特色、組織と業務の内容） レストラン・バーの種類 レストラン・バーの仕事（サービスの心得、仕事の流れ、サービスの種類、コスト意識）、フレンチレストランのサービス（従業員の役割、テーブルサービスの種類、仕事の手順）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P128～147） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
12	レストランの業務知識（メニュー、料理の分類、酒類の分類、テーブルクロスとナプキン、食器と備品の種類、テーブルセッティング）、バーの業務知識（組織、従業員の役割、バーのサービス、備品、仕事の手順）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書P147～167） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	

13	宴会部門（特色と業務の流れ）、宴会予約の仕事（心得、仕事の流れ、業務、主な宴会の種類、婚礼の受注、キャンセルの取り扱い）、宴会サービスの仕事（心得、業務知識、サービスの要領、婚礼サービス、その他の宴会サービス）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。	事前：授業の予習 （教科書P167～188） 事後：次回授業の予習	講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分
14	調理部門（特色と業務の流れ）、調理の仕事（料飲調理、宴会調理、仕込み調理、製菓調理、調理事務所、スチュワード）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。	事前：授業の予習 （教科書P188～192） 事後：次回授業の予習	講義40分、質疑応答30分、 小テストでの振り返り20分
15	ホテルの付帯サービス 施設サービス（客室フロアー、その他）、人的サービス（客室内、客室以外）半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：授業の予習 （教科書P193～196） 事後：ポイントを整理する	講義60分、質疑応答30分
教本： 「わかりやすいホテルのサービス実務」（柴田書店 ￥5,000）		参考文献： 必要な資料をその都度配布	
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習	
授業科目(英文)	ボランティア論 (Volunteer)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	小林 克									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 現代社会におけるボランティア活動の現状と価値を、当事者、活動者、社会、地域の立場から理解する。多種多様なボランティア活動の特性を学び、これからの社会の一翼を担う社会人として、ボランティア活動の基礎を学ぶ。課外の自由時間でボランティア活動(15時間以上)を体験して発表することで、理論と実践のフィードバックを行う。										
授業目標： ボランティア活動は、様々な分野に広がりがあがる。ボランティア活動の歴史、背景を知り、多岐にわたる活動の概要を知る。そして実際にボランティア活動を体験して発表することで、ボランティア活動の基礎を具体的に理解する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			○			◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明					事前：シラバスの読み込み、確認 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（60分）、 発表（30分）		
2	ボランティア活動とは何か。その目指すものとは。ボランタリズムについて説明し、理念と役割について					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（80分）、 小テスト（10分）		
3	ボランティア活動の範囲。日本における活動団体の広がり。NPO、NGOによる様々な活動					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（80分）、 小テスト（10分）		
4	ボランティア体験活動の検討と開始準備。学習目標の作成と提出。グループ編成					事前：体験活動の事前検討 事後：体験活動の用意		講義（40分）、 演習（50分）		
5	ボランティア活動の推進。ボランティア活動の組織と振興策。必要な調整					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、 ディスカッション（20分）		
6	ボランティアの学習と実践。ボランティア活動の意義と課題。実践の課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（80分）、 小テスト（10分）		
7	様々なボランティア活動の分野①。地域でのボランティア活動。その事例の紹介と評価と課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、 ディスカッション（20分）		
8	様々なボランティア活動の分野②。高齢者施設等でのボランティア活動。その事例の紹介と評価と課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、 ディスカッション（20分）		
9	様々なボランティア活動の分野③。障がい者施設等でのボランティア活動。その事例の紹介と評価と課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、 ディスカッション（20分）		
10	様々なボランティア活動の分野④。地方自治体や博物館等の社会教育分野でのボランティア活動。事例紹介					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料の内容確認		講義（70分）、 ディスカッション（20分）		
11	様々なボランティア活動の分野⑤。災害被災地でのボランティア活動。その事例の紹介と評価と課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、 ディスカッション（20分）		
12	様々なボランティア活動の分野⑥。国際貢献分野でのボランティア活動。その事例の紹介と評価と課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、 小テスト（20分）		
13	体験活動成果発表(グループ発表等)①。体験して考えたこと、感じたことを纏める					事前：発表の準備 事後：配布資料の内容確認		演習（90分）		
14	体験活動成果発表(グループ発表等)②。体験して考えたこと、感じたことを纏める					事前：発表の準備 事後：配布資料の内容確認		演習（90分）		
15	まとめ。ボランティア活動報告書提出。授業全体、体験等感想を纏め、発表する					事前：報告書作成等提出準備 事後：配布資料の内容確認		講義（40分）、 ディスカッション（50分）		
教本： 岡本栄一他『ボランティアのすすめ』 ミネルヴァ書房 ￥2,400+税 他に必要に応じ資料プリントを配布。					参考文献： その都度提示します。					
成績評価の方法、評価基準： 発表など授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（30%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 積極的な授業参加を期待します。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ボランテア論 (Volunteer)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
<b>授業概要：</b> 「ボランティア論」は現代社会におけるボランティアの意義と実情を学ぶことを目標とし、学生たちの自主性と社会参加意思を高める授業である。大きな災害が起きたときは、国や自治体などの公共機関のほかに、ボランティア団体による活動が、被災地の救援や救護、復旧に大きな役割をはたしている。東日本大震災のような大きな災害でも、発生してからある程度の期間が経つと、災害救援活動や防災への社会的な関心は低下していく傾向がある。本講義は改めて防災への関心を喚起し、意識を高める必要があるという考えのもと展開している。また、救急法講習を受ける学生が増えてきている現状も鑑み、救援活動の実践的な学習を通じて、災害救援活動の内容や防災の知識が身に付くよう授業を行う。単なる机上の学習に終わらず、課外の自由時間で実際にボランティア活動（15時間以上）を体験することを通じてボランティアの世界を味わい、自分なりの「ボランティア論」を作り上げ、21世紀を生きる我々の生き方をともに考えることを目指す。									
<b>授業目標：</b> 具体的な達成目標としてはさしあたり次のようなことを考えているので、各自、自分なりの学習目標を設定して受講してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① ボランティア活動を実際に体験し、その体験を振り返り、自分のボランティア・イメージを検証する</li> <li>② ボランティアの基本的な理念を理解する</li> <li>③ ボランティアのいくつかの活動分野について知る</li> <li>④ ボランティアを受ける側の考えとニーズを理解する</li> <li>⑤ ボランティア活動をする際に必要な態度とルールを理解する</li> <li>⑥ 災害と防災に関する基礎知識を修得し災害対応能力の基礎を養う</li> <li>⑦ クロスロードなどワークショップなどを通じて、災害救援活動について市民としての自分なりの見方を考える</li> <li>⑧ 21世紀におけるボランティアの社会的意義について考える</li> <li>⑨ ボランティアに関する自分なりの考え方を確立する</li> </ol>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（開講の趣旨、学習の進め方、約束事） ボランティアの理念を講ずる。					事前：なし 事後：配布資料を次回までざっと読む		講義90分	
2	ボランティアの意義を考える。ボランティアの四原則について理解する。 学生とボランティア 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
3	配布資料「ボランティアの楽しさ」を読み考える。 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
4	厚木市市民活動の紹介と活動計画を検討し、活動を始める準備【学習目標作成・提出】。グループ編成					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
5	配布資料「ボランティアの関わり方」を読み考える。 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
6	ワークショップ・クロスロード 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義20分、実習50分、 ディスカッション20分	
7	厚木市の現状と防災対策 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義90分	
8	ワークショップ：避難所運営シミュレーション・HUG					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義20分、実習50分、 ディスカッション20分	
9	被災地での活動（福島県浪江町、南相馬市、二本松市）報告と現地コミュニケーション					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
10	イギリスにおけるギャップイヤー（Gap Year）の成立と発展。日英ギャップイヤー					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
11	配布資料「つながりをつけるネットワーク・プロセス」を読み考える。 【この授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義90分	
12	配布資料「もう一つの情報社会」を読み考える。 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
13	ボランティア活動は主体的・自律的で相互実現を図る活動・花田えくぼ氏の詩。 最終レポート指示					事前：配布資料の事前読む 事後：発表準備、最終レポート準備		講義50分、 ディスカッション40分	
14	ボランティアについて考えこと、体験活動成果発表その1（グループごと）。 感じたことをノートにまとめ、復習シート配布					事前：発表準備 事後：発表準備		講義20分、 発表準備70分	
15	ボランティア体験活動成果発表その2（グループごと）。「自己評価シート」を提出。ボランティア体験活動報告書提出					事前：発表準備 事後：最終レポート準備		講義20分、発表70分	